

自然をいつくしみ

こころ豊かに市民がつどい

オホーツクの文化を創造するまち・網走

網走市都市計画マスタープラン

【平成 29 年 8 月改訂版】

網 走 市

目 次

□はじめに 網走市都市計画マスタープランの基本的な考え方	1
1. 網走市都市計画マスタープランと見直しの背景	3
2. 計画期間と対象範囲	6
3. 策定体制と策定経緯	6
4. 見直しにあたってのポイント	8
I. 網走市の現状	11
1. 広域的な現状	13
2. 網走のまちの状況	15
3. 上位・関連計画	20
II. 市民意向の把握	21
1. 調査の概要	23
2. 調査結果の概要	23
III. 都市づくりの課題	27
1. 都市づくりの課題	29
IV. 全体構想	33
1. まちづくりの理念	35
2. 網走市都市計画マスタープランの体系	36
3. 目標実現のための取組み方針	37
4. 将来都市構造の検討	39
V. 分野別方針	46
1. 土地利用の方針	48
2. 交通ネットワークの方針	52
3. 水と緑の環境形成の方針	55
4. その他都市施設等整備の方針	58
5. 災害に強いまちづくりの方針	61
VI. 地域別構想	62
1. 地域別構想の策定にあたって	64
2. 「まちづくりの目標」との関連	66
3. 地域別まちづくりの方針	67
VII. 実現化に向けて	88
1. 実現化に向けて	90
VIII. 資料	92

はじめに

網走市都市計画マスタープラン
の基本的な考え方

1. 網走市都市計画マスタープランと見直しの背景

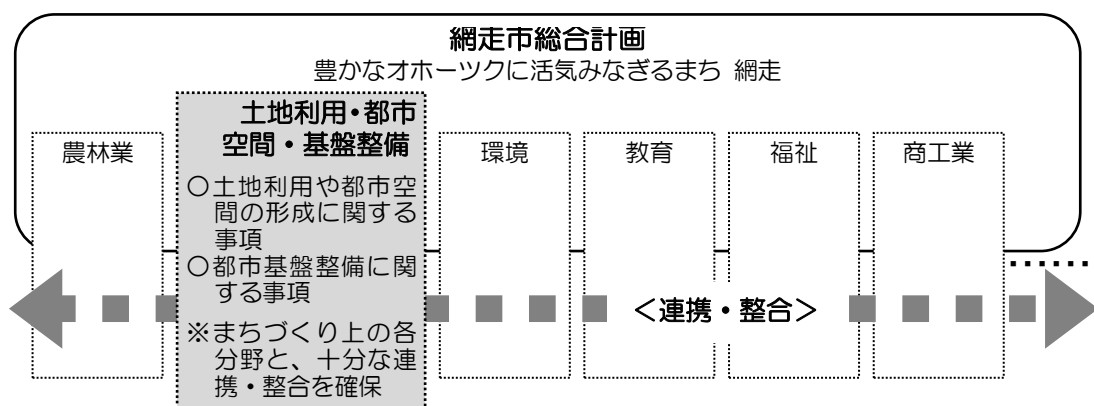
(1) 都市計画マスタープランとは

「まちづくり」には様々な分野や進め方があります。網走市では、「網走市総合計画」を最上位計画として、各分野別のまちづくりに関する計画がそれぞれ定められています。

「網走市都市計画マスタープラン」は、このような分野別計画の一つである「土地利用・都市空間や基盤整備」に関するものとして位置付けられます。

網走市では、平成34年度（2022年度）を計画期間として、平成14年度に当初の「都市計画マスタープラン」の策定を行いました。

■網走市における「網走市都市計画マスタープラン」の位置付け



なお、都市計画法において、「都市計画マスタープラン」は次に示すように、

- 市町村の都市計画の基本的な方針であること
- 住民の意見を反映して策定すること
- 個別の都市計画は、この都市計画マスタープランに即したものにすることと記載されています。

■都市計画法における「都市計画マスタープラン」に関する記載

【第十八条の二】

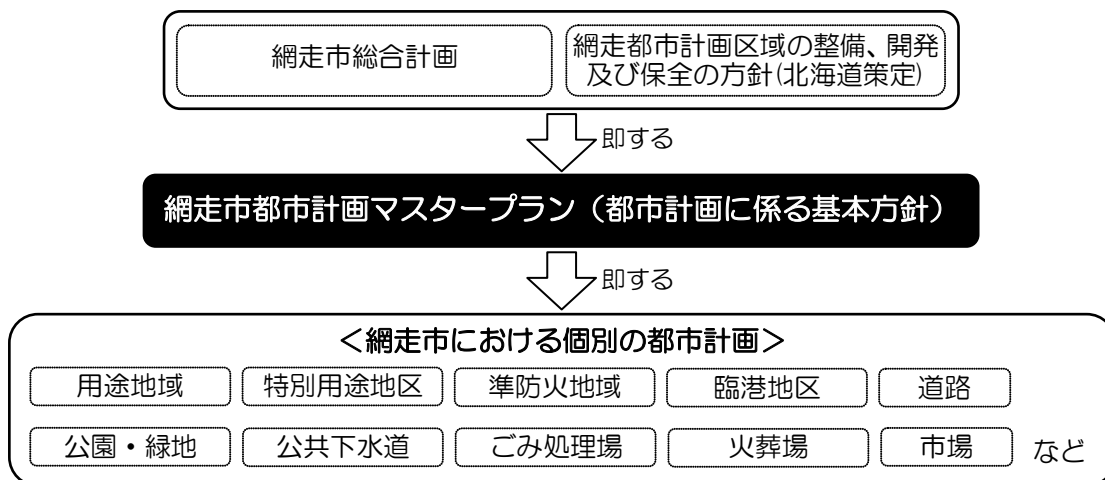
市町村は、議会の議決を経て定められた当該市町村の建設に関する基本構想並びに都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に即し、当該市町村の都市計画に関する基本的な方針（以下この条において「基本方針」という。）を定めるものとする。

2 市町村は、基本方針を定めようとするときは、あらかじめ、公聴会の開催等住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。

3 市町村は、基本方針を定めたときは、遅滞なく、これを公表するとともに、都道府県知事に通知しなければならない。

4 市町村が定める都市計画は、基本方針に即したものでなければならない。

■都市計画分野における「網走市都市計画マスタープラン」の位置付け



本マスタープランは、北海道が策定している「網走都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して定められるものであり、また、網走市における個別の都市計画は本マスタープランに即して行うことが求められます。

また、市民の意向を反映させていくため、本マスタープランの当初策定時にはワークショップ※などの多くの市民参加の機会を経ながら、また、本見直し過程においては市民アンケート調査の実施やまちづくりかわら版の全戸配布、市民が参加する策定委員会の開催、パブリックコメントの実施などを通して策定を進めています。

以上の様に、「網走市都市計画マスタープラン」は、市民とともに網走市の都市計画を進めていくための基礎となる大切な計画といえます。

（２）網走市都市計画マスタープランの見直しの背景

本マスタープランの当初策定から十余年が経過し、その間、

○「みなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）、「天都山展望台オ
ホーツク流水館」など新たな観光施設の整備

○3.3.3 本通沿線における大型店の立地や潮見地区での宅地開発

○西山通の開通による、中心市街地と高台地区の連携の強化

など、まちの利便性や魅力が向上している一方で、

○さらなる人口減少や少子高齢化の進行

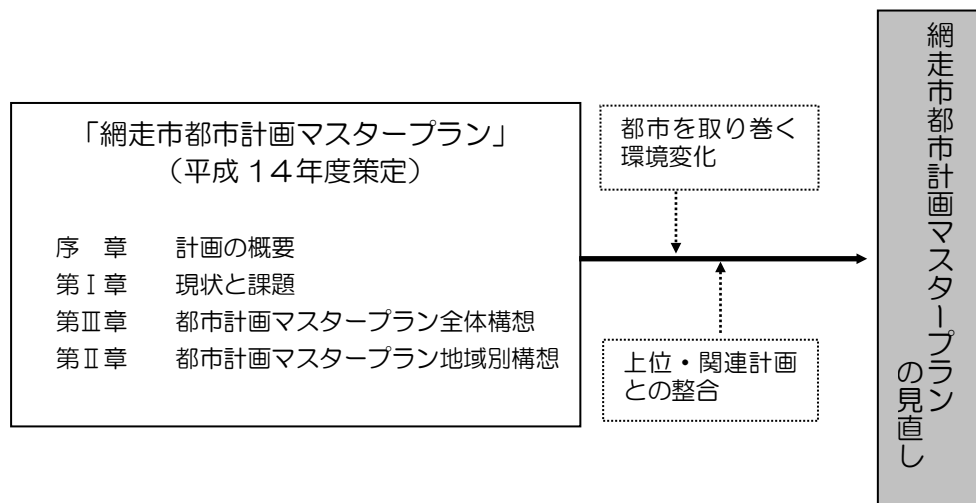
○中心部の核店舗の閉鎖による中心市街地の活力低下の懸念

○公共施設や道路・公園など都市基盤の老朽化

などが課題として顕在化しており、まちを取り巻く環境が当時とは変化しています。

また、当初マスタープラン策定後に「網走市総合計画（平成 19 年度）」が改定され、さらに昨今、内閣府が主導する地方創生の取組みである「網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27 年度）」が策定されるなど、上位計画の改定や新たな関連計画の策定が行われている状況です。

このような中、上位関連計画との整合を図っていくとともに、「土地利用・都市空間や基盤整備」の観点から網走が有する資源を効果的に活かし、より住みやすく多くの人々を誘引する「快適かつ魅力的なまちづくりを戦略に進めていくための指針」とするために、本マスタープランの中間見直しを行いました。



2. 計画期間と対象範囲

(1) 計画の期間

「網走市都市計画マスタープラン」は策定から概ね20年後を見据えた計画であり、計画期間は平成15年度（2003年）～平成34年度（2022年）としています。

網走市を取り巻く社会・経済情勢の変化などに対応し、計画に修正の必要が生じた場合は、柔軟な姿勢で、関連する計画との整合に配慮しつつ、計画の見直しを行っていきます。

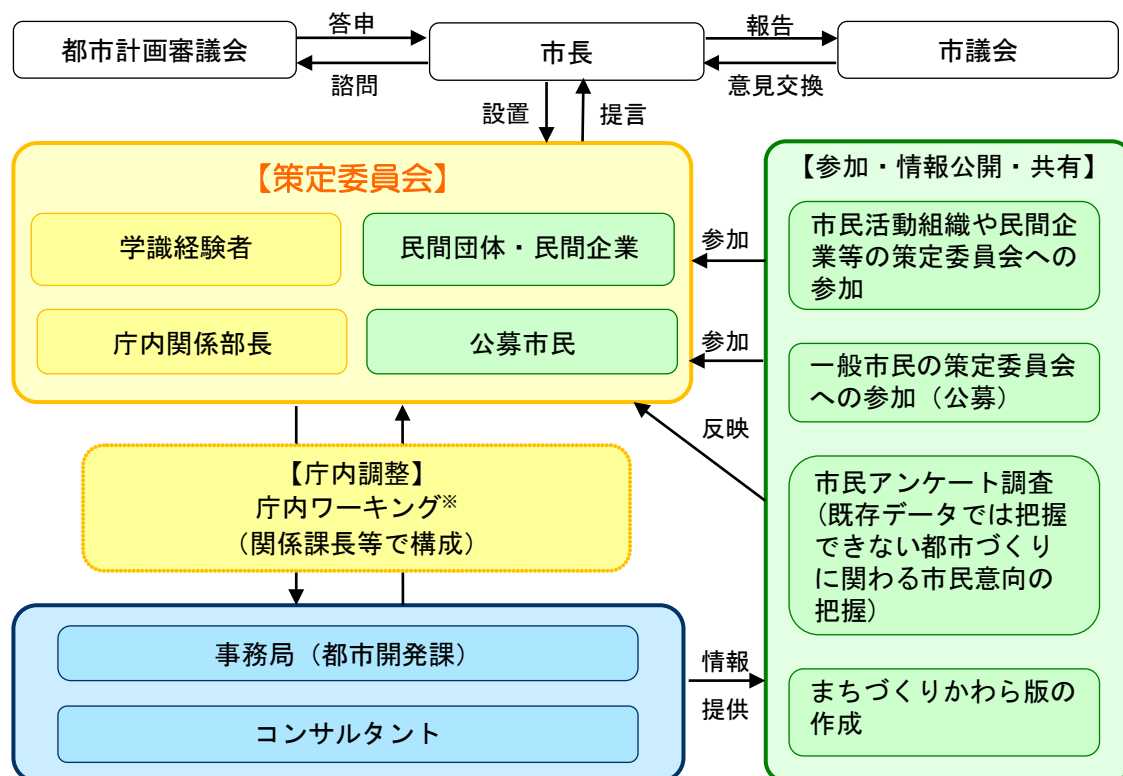
(2) 計画対象範囲

計画の対象範囲は、網走市における都市計画区域を中心としつつ、まちづくり上の総合的な視点において、整備・開発及び保全が必要な区域を対象とします。

3. 策定体制と策定経緯

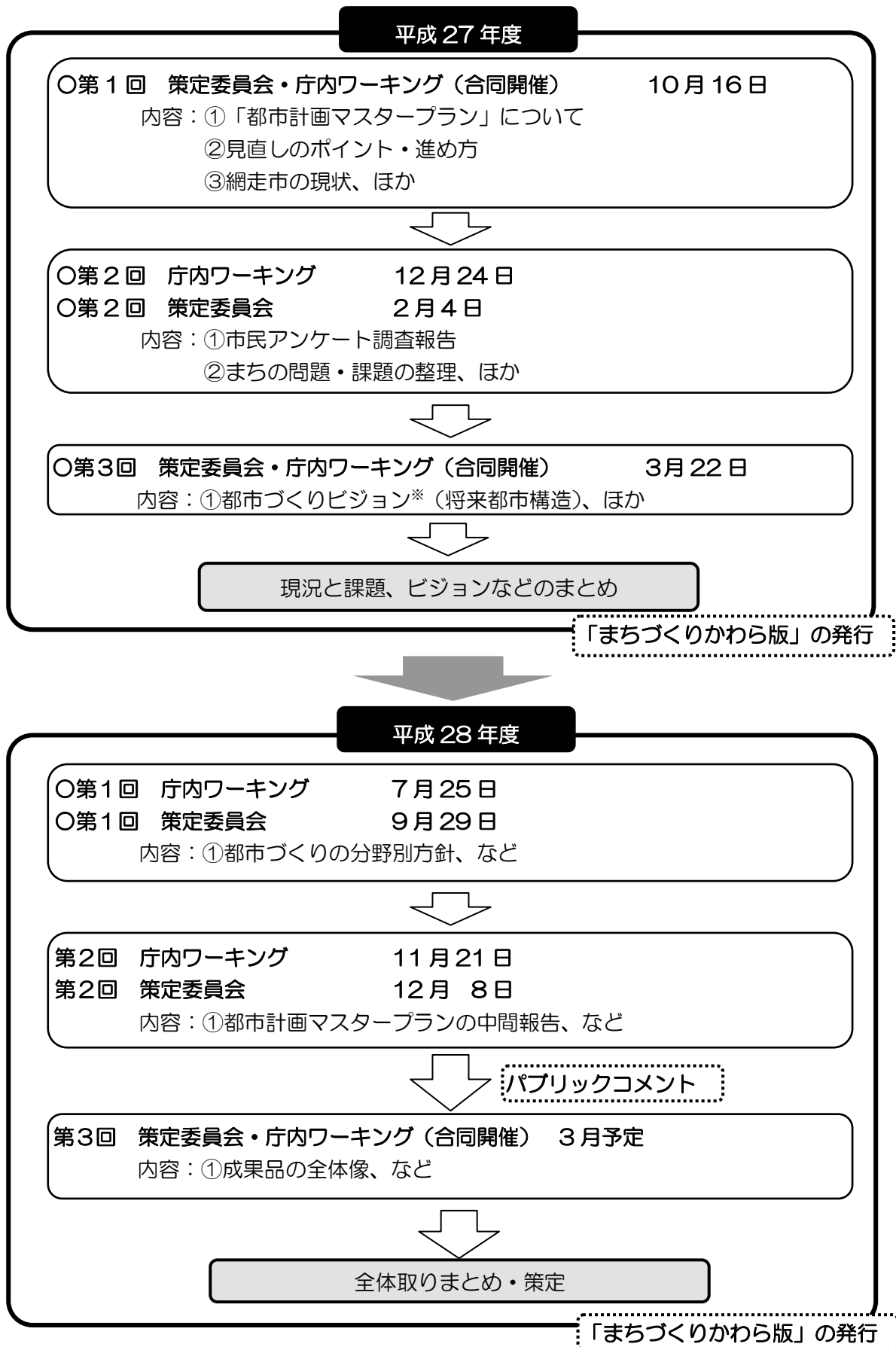
網走市都市計画マスタープランの策定は、次に示す様な体制・経過のもとに進めました。

■「網走市都市計画マスタープラン」の策定体制



右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

■「網走市都市計画マスタープラン」の策定経過



4. 見直しにあたってのポイント

「網走市都市計画マスタープラン」は、以下のポイントを踏まえて見直し作業を行いました。

①全国的な潮流を踏まえた、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク※」へ対応するまちづくり

現行マスタープラン策定より約 10 年が経過した現在、更なる人口減少や少子・高齢化の進展、また地球環境への関心や防災意識の高まり、財政的制約の顕在化や住民参加意識の向上など、社会経済状況は大きく変化しています。

一方、国においては、平成 24 年 12 月に「都市の低炭素化の促進に関する法律」（エコまち法）が施行され、目指すべきまちづくりの方向性として「コンパクトなまちづくり」が位置づけられ、平成 26 年 8 月に施行された「改正都市再生特別措置法」により、コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりを目指す「立地適正化計画」が位置づけられました。

本見直し作業においても、これらを踏まえて、網走の特性を活かした「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」への対応を行います。

②現行計画後に策定された「網走市総合計画」ほか、上位・関連計画との整合

現行マスタープラン策定以降、の平成 20 年 3 月には新たな「網走市総合計画」が策定され、「豊かなオホーツクに活みなぎるまち 網走」を将来像として、「長期的、計画な土地利用」「環境保全と安全性・利便性（快適性）の両立」「地理的条件や立地条件、既存施設の効果的活用」といった土地利用の基本方針が明確に打ち出されたところです。

さらに、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の地方版である「網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成 27 年度）や「網走市公共施設等総合管理計画」（平成 28 年度）の策定が行われました。

本見直し作業においても、これら上位・関連計画との整合のもと、実効性のある計画としていきます。

③将来に亘る人口規模や市街地形態を見据えた都市構造と、地区ごとの役割の明確化

本格的な人口減少と少子高齢社会の到来をひかえ、網走の市街地を構成する各地区について、居住機能、商業・業務機能、行政機能、保健・医療・福祉機能、工業・流通・生産機能等の都市機能上の役割を明確化したうえで、将来にわたる市街地の範囲

右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

の明確化と、主に居住機能、商業・業務機能、行政機能、保健・医療・福祉機能等の中心市街地や地区中心への集約化といった、集約型都市構造への転換に向けた指針としていきます。

④新たな市街地動向に対する都市計画としての対応

現行マスタープラン策定以降、中心市街地及びその周辺では、みなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）やモヨロ貝塚館、借上げ市営住宅の整備のほか、網走厚生病院の建替え、既存施設のコンバージョン※による高齢者施設の整備がなされる一方で、大型核店舗の閉店に至っています。

また、潮見・駒場地区等においては、沿道型大規模店舗や民間による住宅団地の立地が進み、一部に公園配置のアンバランスも見られます。

都市計画道路では、西山通の整備により、中心市街地と潮見地区等の接続が強化されましたが、一方では長期未着手路線も見られます。

本見直し作業においては、これらの市街地動向を踏まえるとともに将来を見据えたまちづくりの指針としていきます。

⑤市民アンケート調査の実施による、生活者の視点の方針づくりへの反映

現行マスタープランの見直しにあたり、広く市民意見を把握・反映した計画とするために、アンケート調査の実施を行いました。

調査項目としては、居住者属性や住まいの状況、現行計画の評価につながる市全体のまちづくりに関わる評価や地区ごとの評価、将来の居留意向やまちづくりに対する考え方などであり、これらを踏まえて策定を行いました。

右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

I . 網走市の現状

1. 広域的な現状

網走市のまちは、次の様な周辺環境に取り囲まれた中に位置しています。

(1) 交通ネットワーク※

・広域連携道路

北見・女満別空港方向と網走市を連絡し、広域連携の主軸となる国道 39 号があります。

将来的には、北海道横断自動車道網走線の整備により、道内主要都市とのさらなる連携強化が期待されます。

・地域連携道路

オホーツク圏の他地域と結ぶ圏内の連携軸として、常呂・紋別方面と連絡する国道 238 号、斜里方面と連絡する国道 244 号があります。

・鉄道

網走と北見方面および斜里方面とをそれぞれつなぐ JR 線があり、オホーツク圏と道内内陸部とを結ぶ重要な交流ルートとなっています。

・空路

網走市は、道内外の主要都市とを結ぶ定期便が就航している女満別空港に最も近接した、商業・業務などの都市的機能の集積地であることから、オホーツク圏における空のゲートシティ※としての役割を担っています。

・港

網走港は、オホーツク海沿岸の流通拠点となる国際貿易港としての重要な役割を担うほか、流水観光砕氷船「おーろら」の発着港として、オホーツク観光の広域交流拠点としても位置づけられます。

(2) 川・湖

網走の固有性の一つといえる、豊富な自然にふれあうことのできる身近な水辺のレクリエーション※の場として、網走湖をはじめとする複数の湖がまちの周囲にあり、網走川が市街地の中を流れています。

(3) 農業や森林

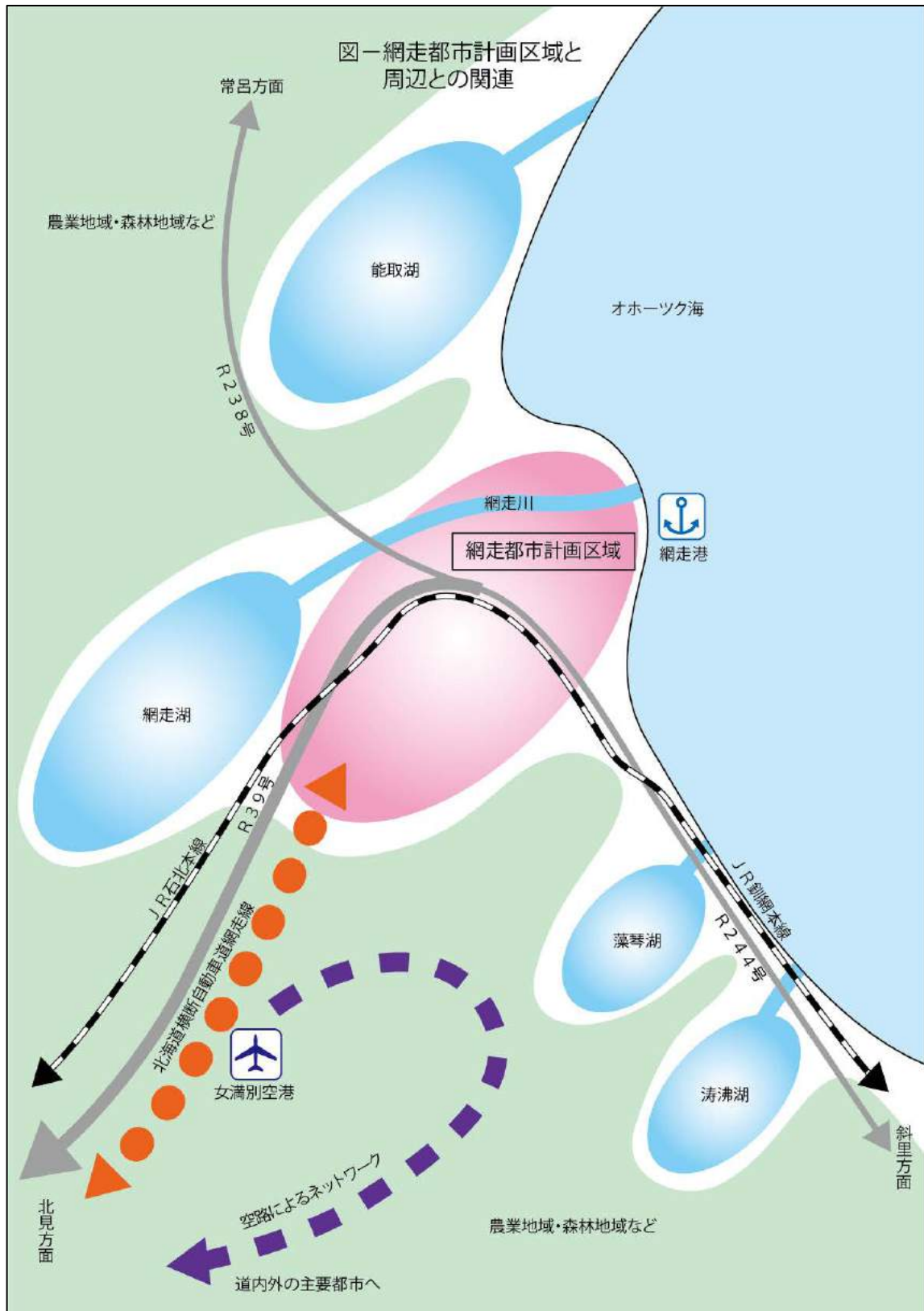
網走市の周囲に広がる農業地域や森林地域は、一次産業の場としての機能を持つほか、景観的な観光資源ともなっており、また、自然とのふれあいの場として、都市生活者に対する「やすらぎ・癒し」を提供する場となっています。

また、近年は、高台地区と呼人方面を連絡する地域「天都山エリア」において、自然景観を楽しめる飲食店などの立地がみられます。

右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

(4) オホーツク海

かつては北方圏との交流の媒体となっていたオホーツク海は、現在は海上物流や流氷をはじめとする観光のフィールドとして、また、日常のレクリエーション空間として、川や湖とともにうるおいのある都市生活を支える場となっています。



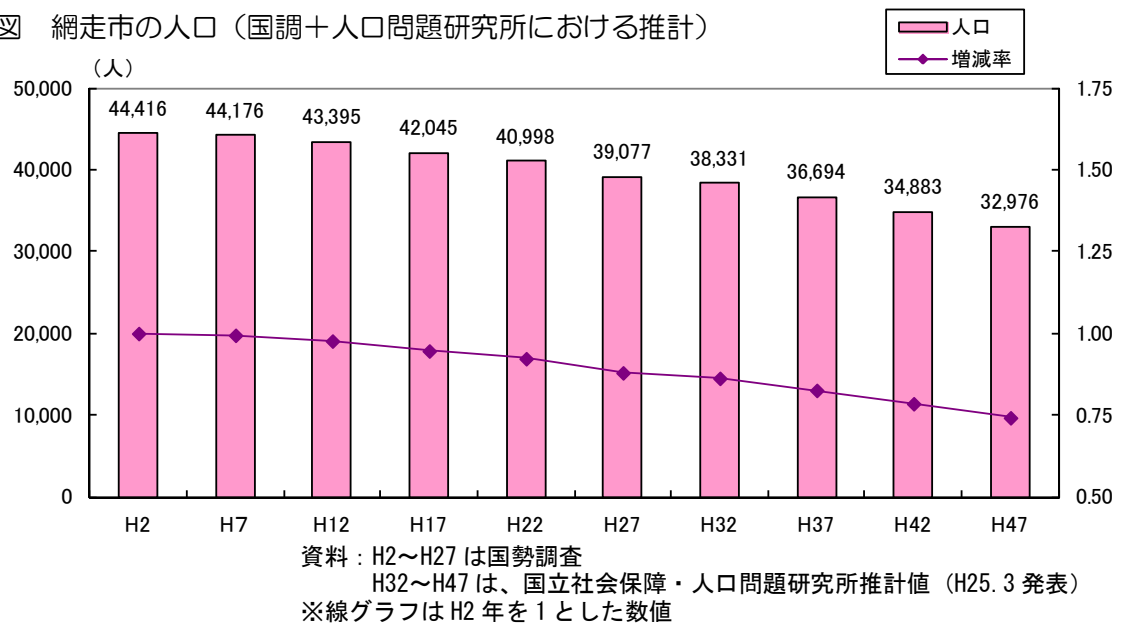
(2) 人口・世帯数の状況

全道において人口減少が進む中、網走市の総人口についても一貫して減少傾向にあります。

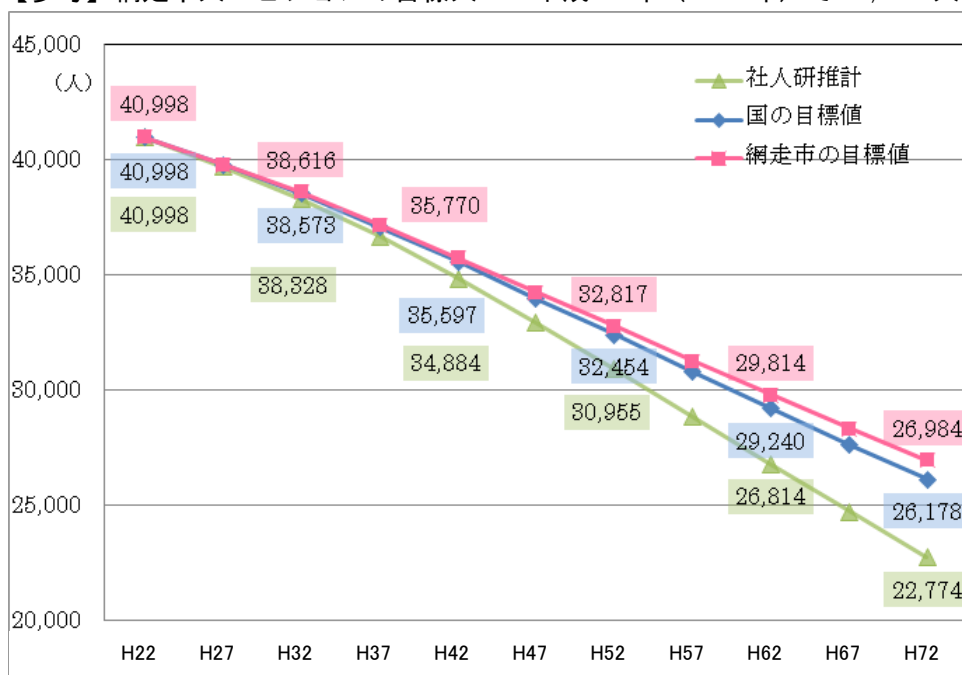
将来人口に関して、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今後約10年後の平成37年には37,000人程度に減少することが予想されています。

現行都市計画マスタープランの策定以降、現在までの人口・世帯数を見ると、人口は減少傾向にある一方で、世帯数については横ばい傾向にあります。

図 網走市の人口（国調＋人口問題研究所における推計）



【参考】網走市人口ビジョンの目標人口：平成52年（2040年）で32,900人を確保

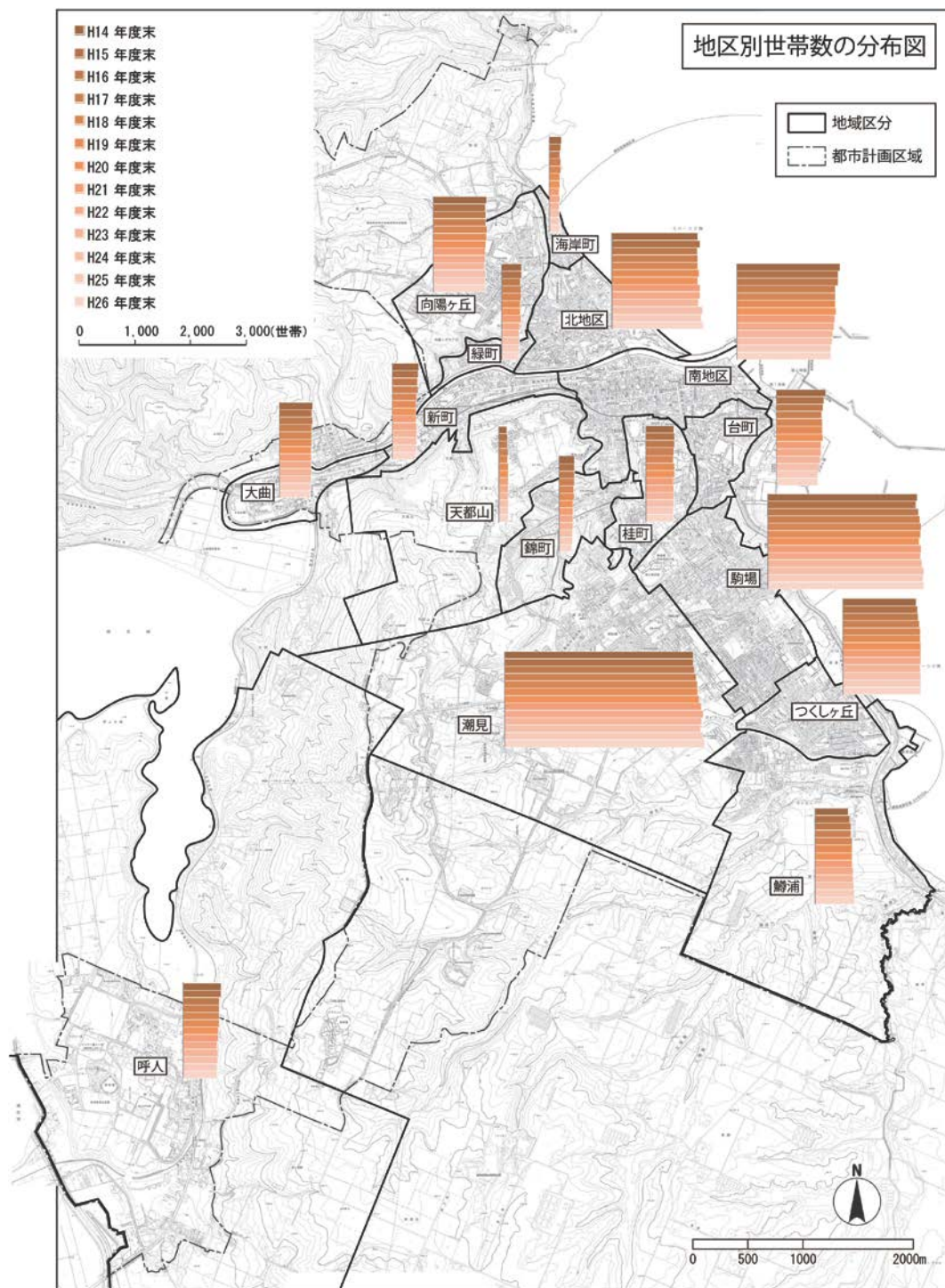


資料：網走市人口ビジョン 2015-2040

地区別世帯数も人口と同様に、潮見地区が最も多く、次いで駒場地区が多くなっています。

網走市街地の各地区と郡部における世帯数の推移をみると、駒場、潮見、つくしヶ丘等では増加がみられます。

一方、市の中心部及び中心部に近い南地区、台町、桂町などではやや減少傾向にあります。



近年の網走市の年齢階層別人口をみると、全道と比較して 65 歳以上の高齢者人口割合が若干低い状況にあります。

しかし、人口の高齢化は着実に進行しており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後約 10 年後の平成 37 年には、その割合が約 32%となると予想されています。

図 年齢階層別の人口推移

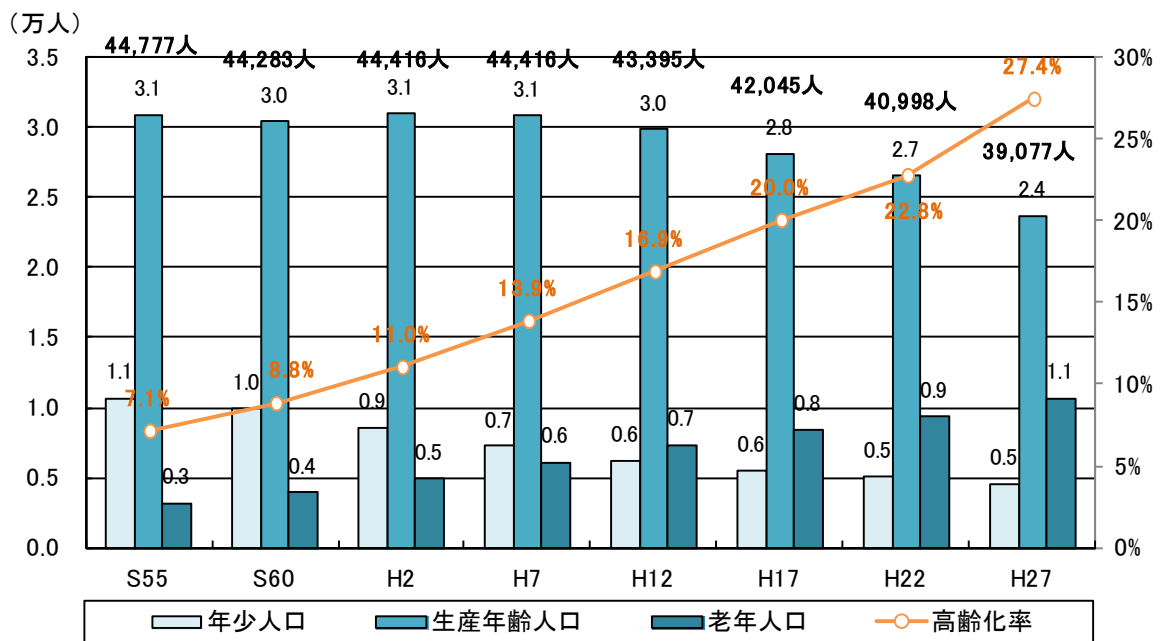
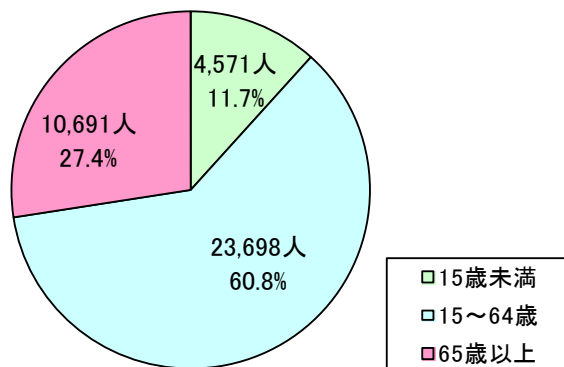
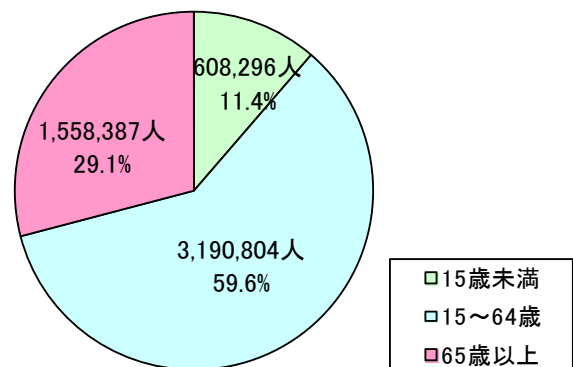


図 年齢階層別人口

【網走市一年齢階層別人口】



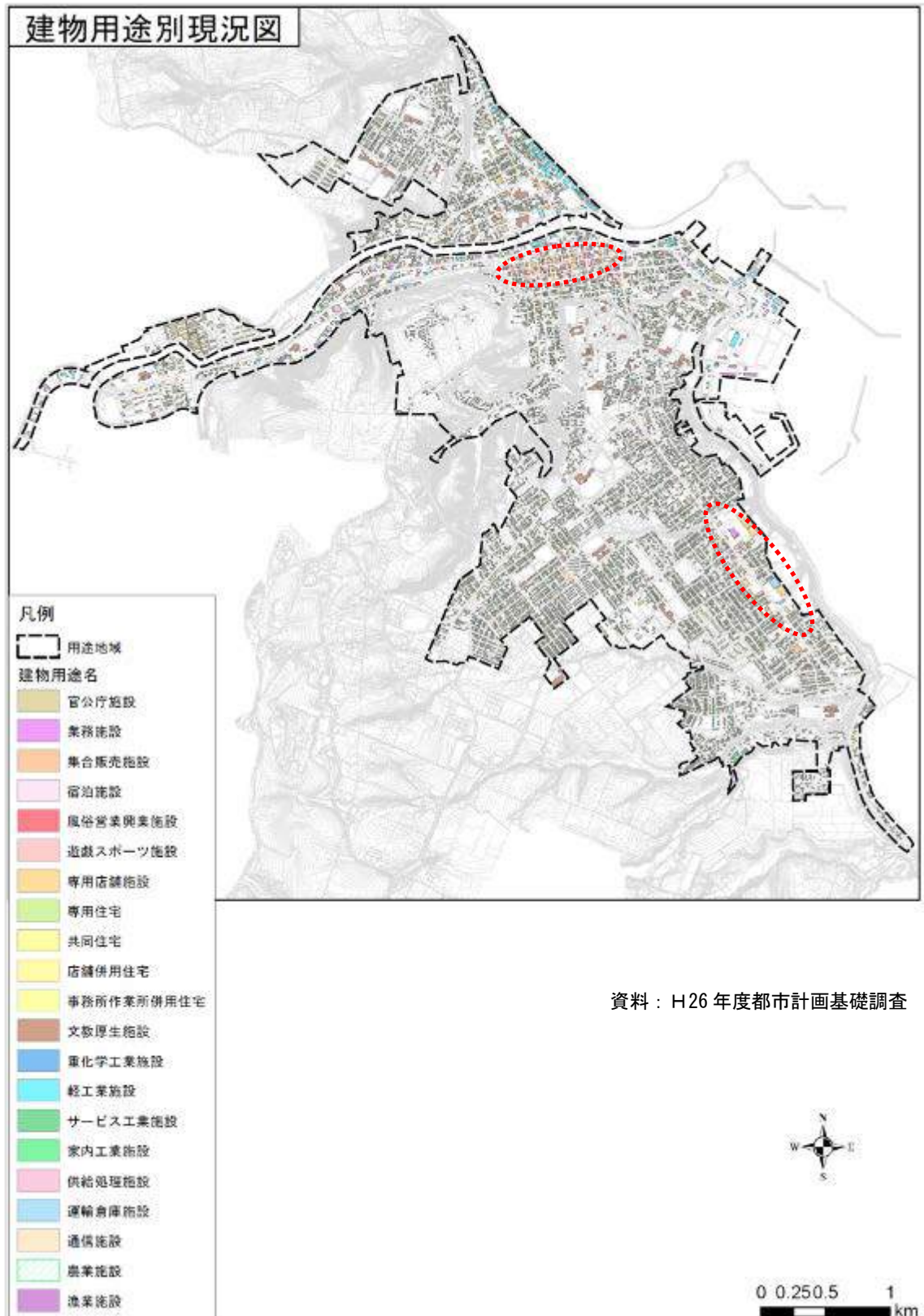
【全道一年齢階層別人口】



資料：国勢調査 (H27)

網走市の建物用途別の立地状況は、図に示す様になっています。

店舗施設については、古くからのまちの中心地である中心市街地のほか、駒場・つくしヶ丘の3.3.3本通沿線に多く立地しています。



3. 上位・関連計画

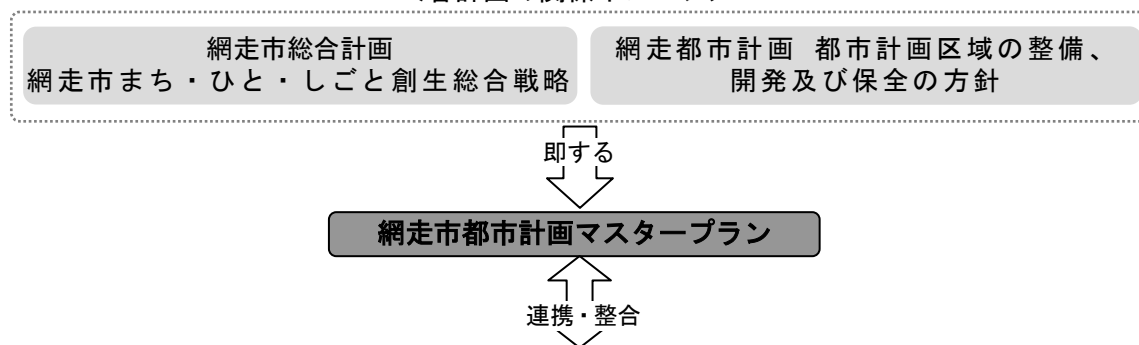
(1) 都市計画マスタープランに係る上位・関連計画

網走市都市計画マスタープランの見直しにあたっては、以下のような上位・関連計画との整合を図りながら策定を進めました。

■上位・関連計画

	計画名称	策定年次
①	網走市総合計画	平成20年3月
②	網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略	平成27年10月
③	網走都市計画区域 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針	平成22年11月
④	網走市景観と緑の基本計画	平成18年3月
⑤	網走港長期構想	平成21年3月
⑥	網走市住生活基本計画	平成28年3月
⑦	網走市公営住宅等長寿命化計画	平成24年3月
⑧	網走港港湾計画（改定）	平成21年7月
⑨	網走市一般廃棄物処理基本計画	平成22年度
⑩	網走市公共施設等総合管理計画	平成28年11月
⑪	網走市観光振興計画 2014	平成26年3月
⑫	網走市環境基本計画	平成26年3月
⑬	網走市地域公共交通総合連携計画	平成23年3月
⑭	網走市大曲湖畔園地整備実施計画	平成18年3月
⑮	第2期 網走市役所地球温暖化対策実行計画	平成24年3月
⑯	第11期 網走市農業振興計画	平成26年3月
⑰	網走市地域新エネルギービジョン	平成16年2月
⑱	網走市地域防災計画	平成24年10月
⑲	第6期 網走市高齢者保健福祉計画・網走市介護保険事業計画	平成27年3月
⑳	網走市障がい者福祉計画（ハートプランV）並びに障がい福祉計画	平成27年3月

<各計画の関係イメージ>



網走市における各分野別計画

網走市景観と緑の基本計画	網走港長期構想	網走市住生活基本計画	網走市公営住宅等長寿命化計画	網走港港湾計画（改定）
網走市一般廃棄物処理基本計画	網走市公共施設等総合管理計画	網走市観光振興計画 2014	網走市環境基本計画	網走市地域公共交通総合連携計画
網走市大曲湖畔園地整備実施計画	第2期 網走市役所地球温暖化対策実行計画	第11期 網走市農業振興計画	網走市地域新エネルギービジョン	網走市地域防災計画
第6期 網走市高齢者保健福祉計画・網走市介護保険事業計画	網走市障がい者福祉計画（ハートプランV）並びに障がい福祉計画			

Ⅱ．市民意向の把握

1. 調査の概要

網走市都市計画マスタープランの見直しを行うにあたっては、広く市民の意見を反映するために、市民アンケートを実施しました。

アンケート調査の概要は以下のとおりです。

実施時期	・平成 27 年 11 月（11/15 投函〆切、H28/1/15 到着分までを集計）
調査対象	・網走市の都市計画区域内の居住者（18 歳以上）から、1,800 名を無作為に抽出 ・高齢者の票を確保するため、65 歳以上に対して 360 票を追加配布
調査方法	・郵送にて配布・回収（返信用封筒を同封）
回収率	・38.6%（834 票／2,160 票）

2. 調査結果の概要

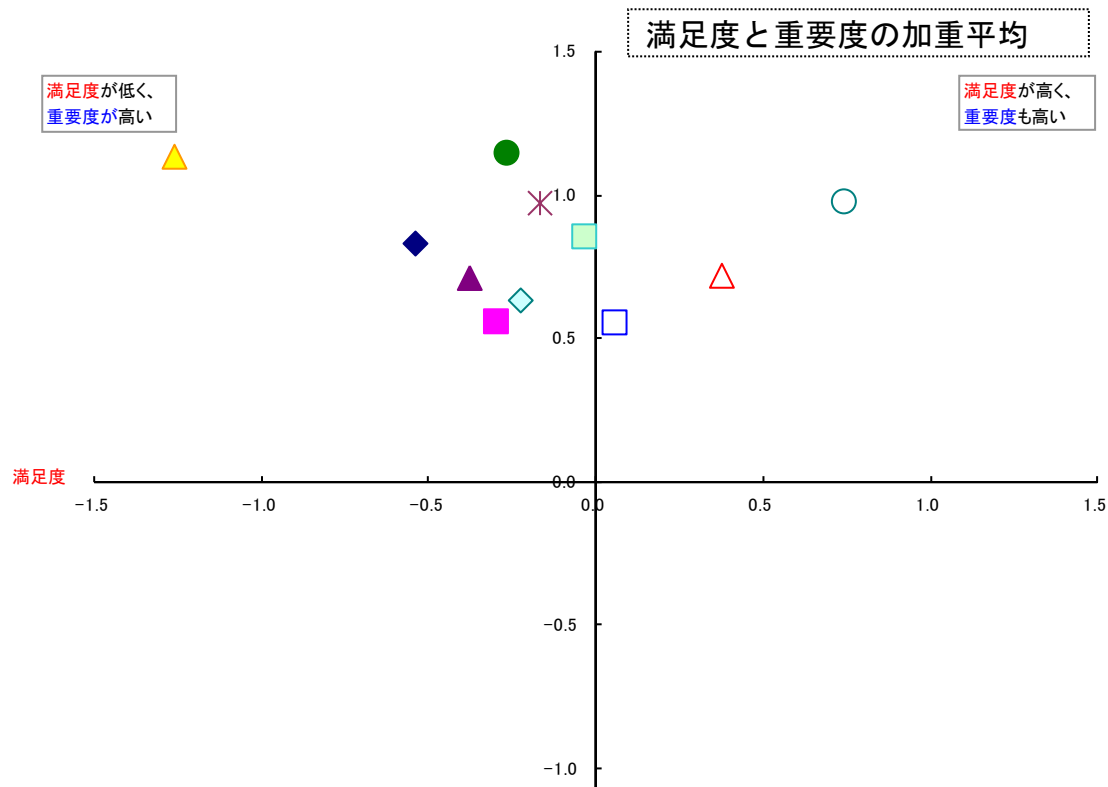
アンケート調査は次の様な項目で実施しました。結果について以下に抜粋します。

表 市民アンケート調査における設問項目

大項目	設問
I.回答者とその家族	1.年齢・性別 2.家族員人数 3.職業 4.通勤先・通学先
II.居住の状況	1.居住地区 2.住宅所有形態 3.網走における居住年数 4.網走への居住の理由
III.現在のまちの項目別評価	1.まちづくりにおける項目別満足度・重要度【網走市全体】 2.まちづくりにおける項目別満足度・重要度【居住地域ごと】
IV.将来の居住希望	1.今後の継続居住希望の有無 2.住み替える場合の理由
V.将来のまちづくりの希望	1.市街地や住宅地の拡大への考え 2.生活拠点等のあり方 3.将来における望ましい網走市のイメージ

(1) まちづくりにおける項目別満足度・重要度について【網走市全体】

満足度・重要度とも高い項目として、「豊かな自然環境」や「大規模な公園整備」が挙げられている一方で、「中心市街地の活気」については、満足度・重要とともに低くなっています。



- ◆住宅地や商業地、産業用地が計画的にバランスよく配置されている
- 計画的につくられた住宅地があり、人口定着につながっている
- ▲中心市街地(商業地)に、にぎわいや活気がある
- ✳観光施設が充実しており、経済発展・観光振興に貢献している
- ▲港湾機能が充実しており、物流が経済発展を支えている
- 自然災害にも強いまちが形成されている
- 豊かな自然環境が残されている
- まちなかでも多くの緑を感じることができる
- △スポーツやレクリエーション利用ができる規模の大きな公園が整っている
- ◇美しいまちなみ景観が形成されている
- 都市間を結ぶ道路が整っている

※「加重平均値」とは、選択肢に序列がある「満足度」と「重要度」に関して選択肢に得点をつけて回答者数によって重み付けをした平均値である。

例) 満足度・重要度の計算例

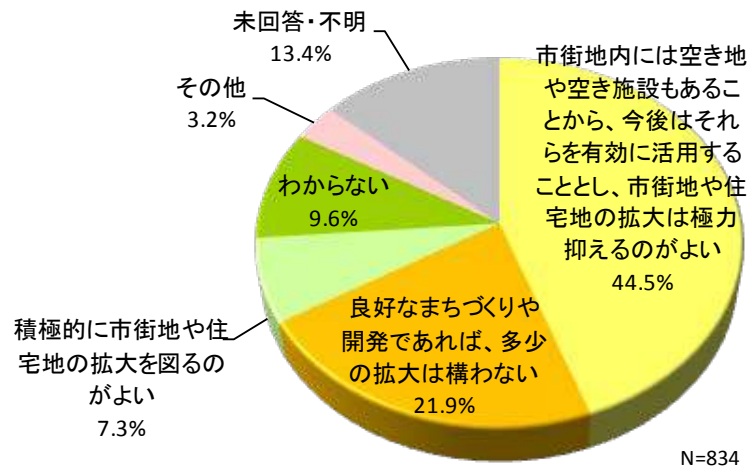
	得点	選択者数
満足(重要)	2	5人
まあ満足(重要)	1	10人
普通	0	15人
やや不満(あまり重要でない)	-1	8人
不満(重要でない)	-2	2人
選択者数合計		40人

$$\text{加重平均値} = \frac{2 \times 5人 + 1 \times 10人 + 0 \times 15人 + (-1) \times 8人 + (-2) \times 2人}{40人} = 0.2$$

数値の範囲は-2から+2の間になり、-2に近いほど評価は低く、+2に近いほど評価は高くなる。

（２）市街地や住宅地の拡大への考えについて

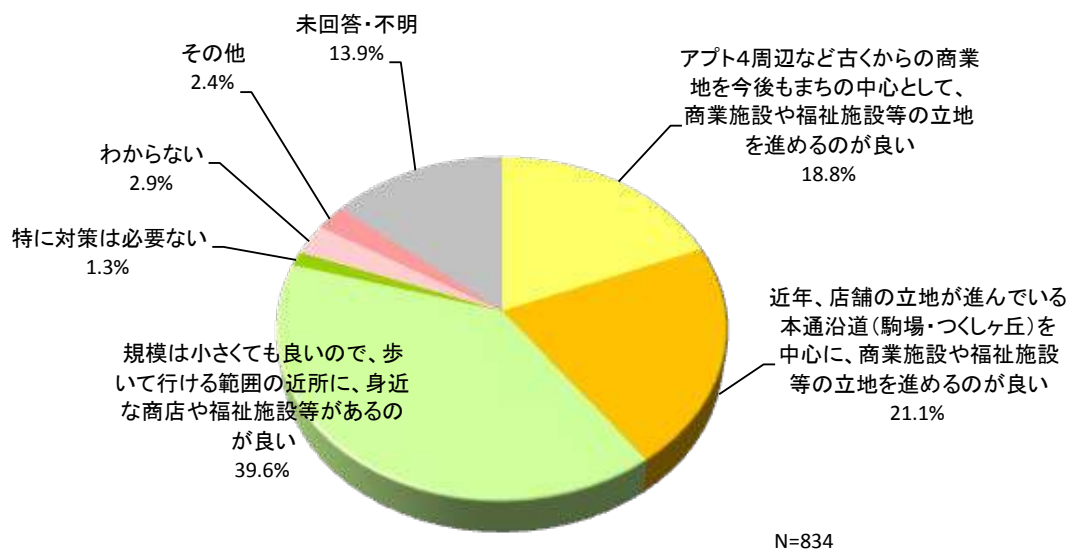
「積極的な市街地拡大」を望む意見は少数派であり、「空地などを活用して市街地の拡大を抑制する」といった意見が４割以上を占めています。



（３）生活拠点等のあり方について

高齢化の進行などを背景に、小さくても歩いて行ける範囲の生活拠点づくりが最も多く望まれています。

また、従来からの「中心市街地」のみならず、近年大型店の立地が進行している「3.3.3本通沿線」についても拠点づくりを進めるといった意見も多く、その割合は両者とも２割程度と意見が割れています。



Ⅲ. 都市づくりの課題

1. 都市づくりの課題

網走の都市づくりにあたっては、近年の都市計画を取り巻く潮流や網走市におけるまちの動向、人口ビジョンにより明確にされた将来の人口減少社会の到来、また、まちづくりに対する市民意向を踏まえ、以下の5つを課題と捉えます。

(1) 拠点の形成と効率的な都市基盤の整備

現在、網走川の右岸と左岸に広がる中心市街地においては、古くからの歴史ある中心部として、既存の都市機能の集積を活かしながら、オホーツク地域全体を対象とした拠点として、行政・業務および商業等の中心的役割を担っています。

また、網走川が流れる潤いある環境のもと、みなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）やモヨロ貝塚館、エコセンターなどが集積している立地条件を活かして、市民・来訪者の双方を対象とした観光・交流・コミュニティの中心としての役割も果たしています。

また、近年は、高台地区における3.3.3本通沿線に規模の大きい商業施設の立地が進行していることなどから、当該エリア内の利便性向上や交通流動が集中する一方で、中心市街地における生活利便性の低下が懸念されており、市民アンケート調査（平成27年度実施）によると、まちづくりの項目別評価において、全項目のうち中心市街地の活気の無さに関する不満が最も多くを占めている状況です。

さらに、当該市民アンケート調査において、「中心市街地」と「3.3.3本通沿線」の双方において、拠点としての位置付けが必要との市民意向が拮抗している状況等を鑑みると、今後の網走市における生活環境の向上を図っていく上では、それぞれの地区の特色を活かした拠点の形成についての検討が必要といえます。

網走市内の都市計画道路は整備率が90%と高い状況ではありますが、一方では計画決定後長期にわたり整備されていない路線もみられます。このような長期未着手道路においては、今後の土地利用の方向性との整合のもと、そのあり方について検討を行っていくことが必要といえます。

また、域外を連絡する高速交通網形成に向けて、北海道横断自動車道網走線の網走までの早期供用を働きかけていくとともに、市街地と接続する連絡道路の整備を進め、広域とのさらなる連携強化を図っていくことが求められます。

近年は地球規模の気象条件の変化等から、多方面において自然災害が頻発しており、網走市においては、昨年度とともに本年度も大雨による河川の増水や土砂災害等がみら

れました。安全に暮らせるまちとしていくため、災害に強い都市基盤づくりとともに、市民の防災意識の向上を図っていくことが求められます。

(2) 市街地内を連絡するネットワーク強化

市民アンケート調査によると、「公共交通の利便性に関する不満」が中心市街地に次いで多く寄せられており、また、公共交通への要望としては、「運行路線の見直し」や「運行時間の変更・増便」などが多くなっています。

現在のバス路線は、バス車庫に隣接している網走バスターミナルを拠点として全市を網羅する運行形態になっている状況にありますが、現在のバスターミナルは拠点性や交流機能に乏しく、また、周囲のまち並みも魅力に欠ける状況といえます。

今後の市街地内のネットワーク強化を行っていく上では、3.3.3 本通沿線に多数の商業施設が立地していること、市内の交通流動として潮見から駒場間の移動が最も多いこと、また、学校・病院施設等へのアクセス需要が多いこと等を踏まえた、より利便性の高い効率的で効果的な公共交通網を検討していくことが望まれます。

網走市の都市計画道路については、そのほとんどが整備済みですが、市民アンケートからは、道路に対する不満が多く寄せられており、その内容としては老朽化に起因するものが多いものと想定されます。

市民生活に密着する生活道路とともに、軸道路やシンボルとなる道路については、その役割の明確化を行い、長期にわたるメンテナンス※コスト※も勘案した上で、再整備や円滑な交通流動のための新たな道路整備の検討とともに、歩行者との錯綜がみられる交差点等における走行環境の改善も必要といえます。

(3) 自然環境と調和したまちとコンパクトな市街地形成

網走市は、周囲を豊かな農地や森林に囲まれた緑豊かな自然環境の中に市街地が位置しています。このような恵まれた自然景観を地域固有の財産として後世に継承していくことが、網走市にとって最も重要なテーマの一つといえます。また、市民アンケート調査からも、網走市民がまちづくり上で最も満足している項目は、「豊かな自然環境」と「規模の大きな公園がある」といったことが多く挙げられているところです。

海・湖・河川また森林や農地といった網走市が有する自然環境について、今後も守り、育て、そして共存していくために、都市計画分野のみならず、日常生活・産業活動・観光など様々な分野において自然環境への配慮を行っていく必要があります。

右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

また、将来市街地の範囲については、市民アンケートによると「積極的な市街地拡大・新たな宅地開発」を望む意見は少数派であり、大多数は「市街地の拡大抑制」といった意見となっています。このような結果を受けて、今後の都市的土地利用の推進にあたっては、自然環境の保全を図るとともに、乱開発による自然災害の誘発を抑制し、今後の人口減少・少子高齢化社会や財政的な制約が求められる中において、まちをコンパクトにまとめながら、投資効果の高い持続的な都市運営を図っていくため、市街地内の未利用地・空き家の有効活用等による市街地の拡大抑制に努める必要があります。

高台地区より、道立オホーツク公園や東京農大を通り呼人地区へアクセスする道路沿道においては、近年、「天都山エリア」と呼ばれる地域に代表されるように、森林などの自然景観を楽しみながらくつろげる飲食店等の立地がみられます。

海や河川などの水辺の自然を活用した従来からの取組みにあわせて、自然との共生や乱開発防止の視点を持ちながらも、このような新たな網走市の魅力を活用した空間づくりについても検討していく必要があります。

(4) オホーツクにおける観光・交流の中心地としての役割強化

網走の有する歴史文化や自然資源を活用し、みなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）、近年リニューアルされた天都山展望台オホーツク流水館やモヨロ貝塚館などの観光交流及び学術施設、豊かな水辺や自然動植物を資源として、広く国内・国外からの観光流入の増加を図り、まちの活性化に繋げていくことが必要といえます。

また、網走川を挟み右岸左岸に広がる中心市街地においては、アパート4を中心とする商業機能、金融機関や事業所、行政機関の集積する行政業務機能、網走駅やバスターミナルやエコーセンターの立地する交通結節機能・観光機能や交流機能など様々な中枢機能が集積しています。この特性を活かし、周辺の観光施設等の連携とうるおいある水辺空間が一体となり、網走市のみならずオホーツク圏全体としての拠点性の維持・強化を図っていく必要があります。

近年、高台地区の3.3.3本通沿線には大規模な商業施設の立地が進行していますが、沿線全体として計画的な土地利用がなされておらず、統一感の無い大規模な看板が林立しているなど、景観面においても魅力に欠ける現状となっています。

当該道路周辺にはコミュニティ[※]施設や福祉・子育て関連施設も立地しており、また、オホーツク海を臨む豊かな森林環境も有していることから、これらを活かして、うるおいある魅力的なまちなみ環境を創出していく必要があります。

右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

（５）高齢者のみならず、若年世帯・子育て世帯にも住みやすい都市づくり

網走市人口ビジョンによると、平成 22 年現在で 22.8%である高齢化率は年々増加し、平成 52 年では 12,000 人と全人口の 37%程度を占め、一方で年少人口率は減少が続き、同年で 10%（3,000 人）程度になると想定されています。

また、市民アンケート調査においても、このような背景のもと「医療・保健・福祉の充実」や「高齢者・障がい者・子ども等にやさしい健康長寿のまち」を望む意見が多くを占めていることから、今後の都市基盤整備をはじめとするまちづくり全体において、誰もが使いやすいユニバーサルデザイン※のまちづくりを進めていくことが必要といえます。

現在網走市に居住している若年世帯においては、「今後は市外に住み替える」という意見が多くなっています。「網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等の関連計画とも連携をとりながら、Ｕ・Ｉターンの推進や農大生の地元での就業推進などにより、市内での定着を図っていく必要があります。

また、老朽化した公営住宅の再整備や中心市街地の商業環境・交通環境などの生活利便性の向上にあわせて、子育て世帯や高齢者を含め、多様な世代が安心して住める環境づくりを行っていく必要があります。

網走市の市民一人当たりの公園面積は 52 ㎡と全道平均を大きく上回っており、市民アンケート結果においても、公園の満足度は高い評価を得ています。都市計画公園はほぼ整備済みですが、一方では新たな公園整備の要望も寄せられています。また、遊具の老朽化や周辺の居住者層などの変化により、活用されていない公園も多くみられる状況です。

今後は、公園長寿命化計画等の関連計画にもとづき、地区ニーズを踏まえ、長期的な視点における管理コストの低減にも配慮しながら、公園緑地機能（遊具や施設、設備）の見直しや集約を行っていく必要があります。

右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

IV. 全体構想

1. まちづくりの理念

当初策定した網走市都市計画マスタープランにおいては、勉強会の段階から10回（勉強会5回、地区別構想5回）にわたり市民参加のワークショップを開催し、幅広い見地からまちづくりの理念の設定を行いました。

本見直しにおいても、当初設定した内容を引き継ぎ、まちづくりの理念を以下のとおりとします。

海、川、湖や緑があふれ、四季を通じて魅力あるオホーツクの生活を大切にし、個性ある豊かな環境を育んでいくことを、網走で暮らす者の共通の心得とすることを目指し、将来にわたるまちづくりの理念を以下の様に設定します。

～網走市都市計画マスタープランの理念～
『自然をいつくしみ、心豊かに市民がつどい、
オホーツクの文化を創造するまち・網走』

そして、網走のこれからのまちづくりを進めるにあたって、生活に誇りを持ち、人々が支え合い、そして、自然とともにある暮らしを大切にしていくまちの実現にむけた目標についても、当初策定した内容を引き継ぎ次の3つを掲げることとします。

網走市都市計画マスタープランの
実現に向けた目標

●豊かさを実感できるまち

ーオホーツクの資源を享受でき市民が誇りの持てるまちづくりー

●人と人の交流があふれるまち

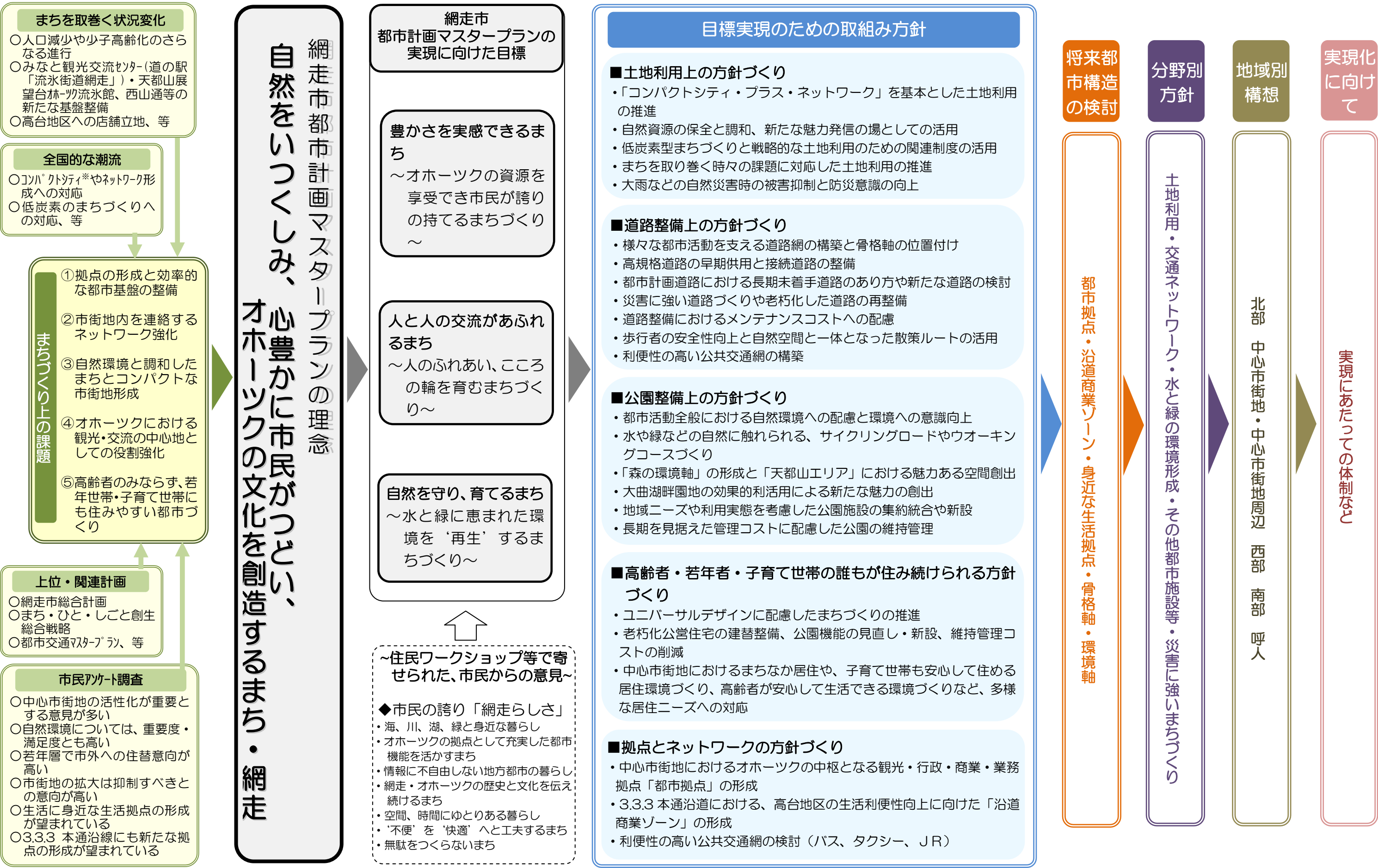
ー人のふれあい、こころの輪を育むまちづくりー

●自然を守り、育てるまち

ー水と緑に恵まれた環境を‘再生’するまちづくりー

注) ここでの『目標』とは、将来の「まちづくりの理念」として掲げた文言を補足するために設定したものであり、個別具体の施策にもとづいた成果指標を伴うものではありません。

2. 網走市都市計画マスタープランの体系



右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

3. 目標実現のための取組み方針

(1) 土地利用上の方針づくり

- 人口減少傾向を踏まえ、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を基本にして、北海道が提唱している「北の住まいるタウン」の考え方も参考にしながら、公共施設の集約・統廃合や市街地内の未利用地・空き家の有効活用を含めて、効率性に配慮した投資効果の高い土地利用を進めていきます。
- 市街地を取り巻く自然資源の保全・調和を図るとともに、まちの魅力発信の場としての活用を進めていきます。
- 自然環境の保全の視点から、環境負荷に配慮した低炭素型のまちづくりを進めていきます。
- 用途地域をはじめとした地域地区制度を活用し、住居地・商業地・工業地の健全な発展に資する土地利用とともに、市街地内のそれぞれの地区が有する役割や可能性を踏まえた効率的かつ戦略的な土地利用を進めていきます。
- 土地利用に関する新たな制度や都市関連法改正の動向を踏まえるとともに、産業・人口の動向などに呼应しながら、柔軟な姿勢のもと計画的な用途地域の見直しほか時々の課題に即した土地利用を図っていきます。
- 自然災害発生時における被害の最小化に向けて、災害に強い都市基盤整備を進め、安心して生活できる環境づくりを図るとともに、市民の防災意識の高揚を図り災害予防に努めます。

(2) 道路整備上の方針づくり

- 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の視点のもと、拠点形成と一体となった骨格軸の位置付けとともに、市街地内の発生・集中交通の円滑な処理に向けた道路網を構築し、様々な都市活動を支えていきます。
- 広域との連携・交流の促進に向け、北海道横断自動車道網走線の早期供用を働きかけていくとともに、市内における接続道路の整備を進めます。
- 将来的な土地利用との整合のもと、都市計画決定後長期にわたり着手されていない道路のあり方や、新たな道路整備の必要性を検討していきます。
- 大雨時における冠水被害の最小化など、災害に強い道づくりを行っていきます。
- 今後の道路整備においては、初期投資コストのみならずメンテナンスコストも考慮していきます。
- 老朽化している道路においては、その役割を再確認するとともに適切な維持・補修を進めていきます。
- 高齢者や子どもに配慮した、安全性の高い道路の整備を進めていくとともに、公園緑地や水辺空間と一体となった散策ルートの活用等を進めます。
- 「都市拠点」や「沿道商業ゾーン」・「身近な生活拠点」の形成との連動のもと、学校や病院ほか主な生活利便施設の立地状況を踏まえて、利便性の高い公共交通網を検討していきます。

（３）公園整備上の方針づくり

- 網走市の財産といえる水や緑といった自然環境を守り後世に引き継いでいくため、まちづくり・都市活動全般において環境への配慮を行っていきます。
- 市街地内及び周辺の豊かな緑や水辺を保全・活用していくとともに、自然環境に関する市民意識の向上を図り、市民と共に自然環境の保全や市街地の景観形成を進めます。
- 市街地の歩行者ネットワークと一体となった、緑のネットワークを創出していくとともに、「網走川かわまちづくり」などの関連計画との連携のもと、うるおい空間づくりを進めます。
- 網走市の新たな魅力向上に向けて、道立オホーツク公園と一体となった「森の環境軸」の形成を行います。
- 森の環境軸の一翼を担う「天都山エリア」については、自然との調和・共生の視点を持ちながら、地域との協働において魅力ある空間づくりを行っていきます。
- 市街地に隣接した新たな自然資源といえる大曲湖畔園地については、まちづくりの視点における効果的な利活用を推進していきます。
- 長期を見据えた維持管理コストの削減と、活用頻度や老朽度を踏まえた公園機能の見直しや集約、地域ニーズを踏まえた新たな公園整備を検討していきます。

（４）高齢者等・若年者・子育て世帯の誰もが住み続けられる方針づくり

- 将来にわたり高齢者をはじめ誰もが安心して住み続けられる生活環境づくりにむけて、道路・公園等の基礎的社会基盤づくりにあたっては、ユニバーサルデザインに配慮していきます。
- 老朽化した公営住宅における建替整備や既存住宅の維持修繕を行い、管理面の効率化も考慮しながら良質な居住環境の創出を図ります。
- 既存の公園の役割見直しや新たな公園整備、安全な歩行者空間の確保など、子育て世帯や高齢者が安心して生活できる居住環境づくり、また、まちなか居住など多様な居住ニーズへ対応していきます。

（５）拠点とネットワークの方針づくり

- 網走市の中心市街地においては「都市拠点」として、行政・業務・観光ほか市民の交流の場としての機能の維持・強化を図っていきます。
- 近年沿道型商業施設の立地が進行している 3.3.3 本通沿線においては、「沿道商業ゾーン」として、魅力ある商業集積地や生活拠点の形成にむけた環境整備を進めていきます。
- 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の理念のもと、人口減少下においても持続的なまちづくりを進めていくために、各拠点や市街地内を連絡する利便性の高い公共交通網を検討していきます。

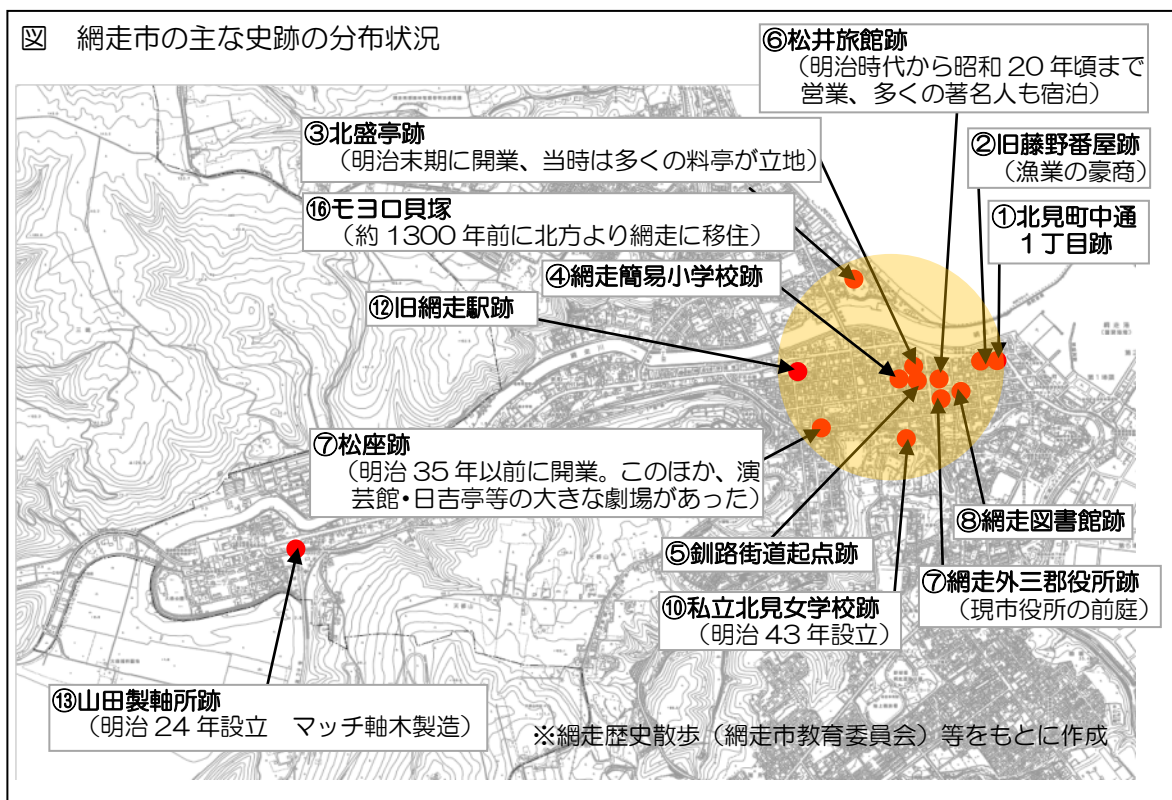
4. 将来都市構造の検討

(1) 拠点づくりや骨格軸・環境軸設定の背景となる考え方

網走地方における人類の歴史が始まったのは、およそ2万年前頃からといわれ、国の史跡にも指定されている「モヨロ貝塚」など、今に残る豊富な遺跡等がそれを物語っています。

明治5年に網走村の名称が与えられて以来、北見4郡の中心地として、明治30年には網走支庁（現オホーツク総合振興局）が設置され、その後、道路・鉄道や港湾などの基盤整備、官公庁施設や事業所の設置とともに、農業・水産業の興隆、観光交流機能の強化のもと、管内の中核機能を担う都市として現在に至っています。

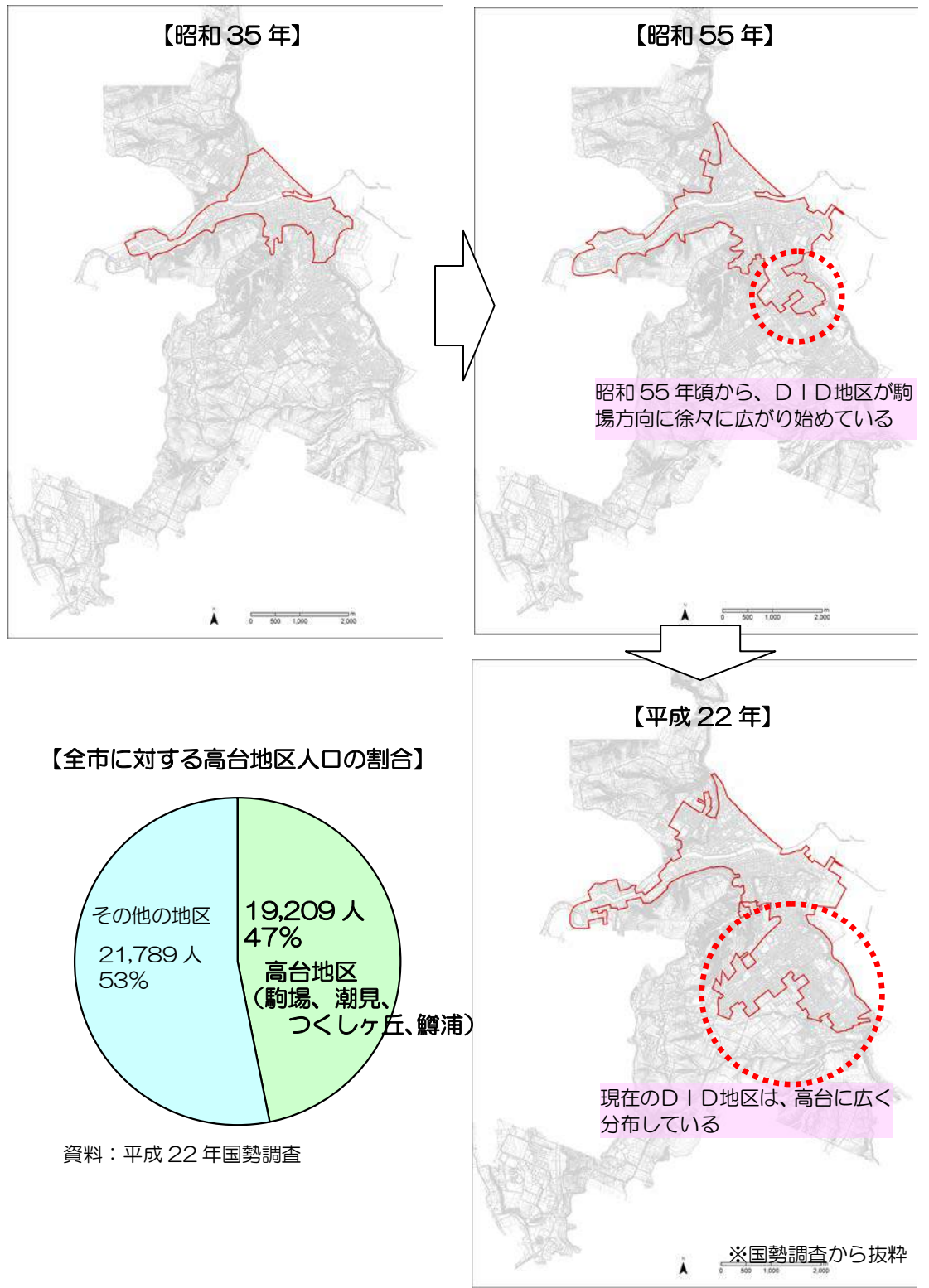
網走市の歴史を偲ぶ史跡等の分布をみると、主要な施設は網走川河口周辺に立地しており、現在の中心市街地は古くからまちの要衝であり交流の場であったことが読み取れます。



網走市の市街地の変遷について、人口の集中度合を示す「D I D※地区」で時系列で比較すると、当初は網走川河口と河畔周辺のみ人口集積がありましたが、昭和 55 年頃から高台方面に人口が広がり始めてきたものと考えられます。

また、人口分布状況をみると、全市人口の約 50%が高台地区に集中している状況であり、潮見地区等においては現在も新たな住宅地の立地が進んでいます。

図 網走市のD I Dの推移と高台地区が占める人口割合



右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

網走市を地形条件から俯瞰し模式的に鑑みると、市街地は網走川河口周辺の古くからの市街地である「1 階部分」と、背後に広がる河岸段丘上の平地である高台地区の「2 階部分」で構成されているといえ、そして「ロフト・屋上部分」といえる自然色豊かな丘陵地が取り囲んでいるものと捉えられます。

図 網走市の市街地を取り巻く地形条件



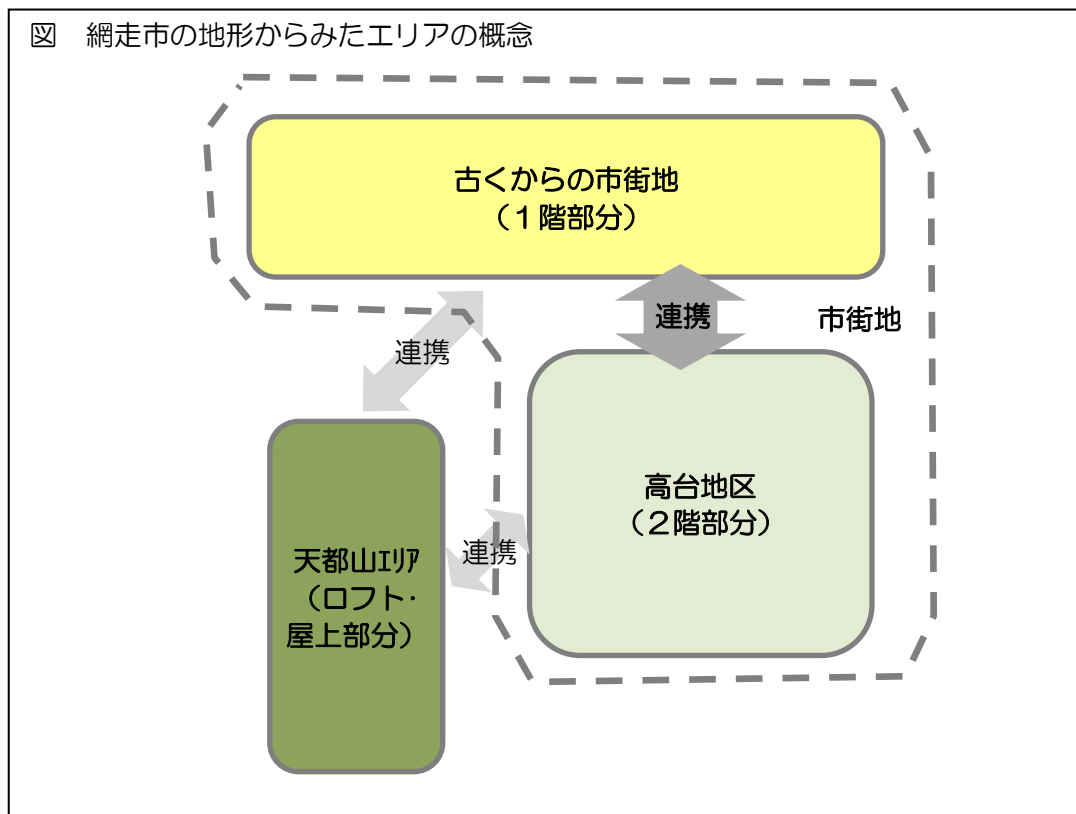
古くからの市街地である「1階部分」については、全国的な中心市街地活性化の動向と相まって、当初策定の都市計画マスタープランにおいて、全市の中核機能の強化や生活利便性の向上、交流活動の活発化を図る地区と位置付けをしているところです。

しかし今後において、前述のような現状を踏まえた中で、持続的なまちづくりを進めていくためには、古くからの市街地（1階部分）のみならず、多くの定住人口を抱える高台地区（2階部分）においても、生活利便性向上にむけた新たな機能や拠点性の向上を図っていくことが必要と考えられます。またこの様な大きな拠点やゾーンの形成とともに、それぞれの生活圏においては「身近な生活拠点」として日常生活をサポートしていく機能が必要と考えられます。

また、網走市街地の「ロフト・屋上部分」に位置する「天都山エリア」については、近年の様々な取り組みをきっかけに、呼人の自然資源と市街地を繋ぐ網走の新たな魅力を発信する「森の環境軸」としての位置付けを行い、地域との協働の視点にて魅力あるまちづくり発信していく必要があると考えられます。

そして、1階・2階・屋上の各フロアーの連携により、網走固有の地形条件や歴史を活かし、より魅力があり生活しやすいまちとしていくことが必要と考えられます。

図 網走市の地形からみたエリアの概念



以上のような背景のもと、次の様に将来の網走市における都市構造を整理しました。

将来に向けた網走市の都市構造

【凡例】

- 都市拠点
- 沿道商業ゾーン
- 「身近な生活拠点」の概ねのエリア
- 骨格軸
- 環境軸

環境軸

骨格軸

都市拠点

骨格軸

沿道商業ゾーン

天都山エリア

環境軸

【凡例】

- 住居系用途地域
- 商業系用途地域
- 工業系用途地域
- 地域間幹線道路
(塗潰しは都計道として整備済み)
- 地域内幹線道路
(塗潰しは都計道として整備済み)
- 上記以外の都市計画道路
(破線は未整備)
- コミュニティセンター・住民センター



0 500 1000 2000m

表 拠点や軸の位置付け

区分	名称	内容
拠点など	都市拠点	現行の都市マスの地域別構想における「中心市街地」であり、商業地域に指定されている地区周辺です。歴史的にみても古くから行政・商業・業務等の中心を担っており、市街地としての土地利用がなされていた地区です。 近年は、みなと観光交流センター（道の駅「流氷街道網走」）の整備等にもない、国内のみならず海外からも多くの観光客を誘引する「国際交流の場」としての役割とともに、新たな公営住宅の整備、借上げ公営住宅の導入などによる交流・定住人口の増加に向けた取組みが進められています。 今後とも、オホーツク全体の交流拠点として、かつてより有する中枢機能の強化向上を図るとともに、公共交通網の検討や、大規模店閉鎖跡地の有効活用などを進め、生活利便性や拠点性、交流・おもてなし機能の向上を図っていきます。
	沿道商業ゾーン	3.3.3 本通沿線の近隣商業地域にあり、近年は大小様々な規模の商業施設等の立地が進行している地区です。市内の交通流動をみても、中心市街地よりも駒場地区を目的地とする交通量が多くなっているなど、求心性が高まっている状況といえます。 今後は、高台地区の生活利便性の向上に資する「沿道商業ゾーン」として、中心市街地との連携のもと、新たな機能の導入や魅力ある商業集積地としての沿道環境づくりなどに取り組んでいきます。
	身近な生活拠点	今後高齢化社会がさらに進行するにあたって、歩いていける範囲の生活圏における、生活サービス等の拠点が求められています。 現在市内に立地している「コミュニティセンター」や「住民センター」の役割を再認識し、身近な生活圏におけるサービスセンターとしての機能の維持・強化を図っていきます。 また、現段階において、これらのコミュニティセンターでカバーが困難な地域については、将来的に、他の公共施設や福祉施設・町内会館等の活用を検討し、さらなるサービス水準の向上を図っていきます。
都市軸	骨格軸	三眺・大曲から中心市街地に至る国道 238 号・39 号、及び 4 条通（アプト 4）沿線を都市の骨格軸と位置付けます。 網走を代表する自然景観の一つである網走湖や網走川を臨みながら市街地へアプローチする広域軸であり、この特色を今後とも維持していきます。 また、中心市街地から、沿道商業ゾーンを経由し国道 244 号に至る沿線をもう一つの骨格軸と位置付けます。なお、3.3.3 本通は、西山通り供用後においても、従来と変わらず今後とも網走市の生活の大動脈と位置付けていきます。
	環境軸	オホーツク海から中心市街地を通り網走湖に繋がる、網走川及びその周辺を中心とする「水辺の環境軸」を位置付けます。国道 39 号骨格軸と重複し、広域からの網走市街地への導入部分も担うとともに、中心市街地も通過する「まちなかと自然」の双方の特色を持つものといえます。 今後の「網走かわまちづくり」における散策路等の環境整備等とあわせ、中心市街地の魅力の一つとして活用を図っていきます。 網走湖に面する呼人地域と、森林エリアにおける 2 つの道道（大観山公園線・中園網走停車場線）を経由して、潮見ほか網走市街地を連絡する軸をもう一つの環境軸「森の環境軸」として位置付けます。 道立オホーツク公園や天都山展望台オホーツク流氷館、東京農業大学、また近年は「天都山エリア」と称して自然環境を楽しめるカフェ等の立地が進んでいるなど、網走の新たな魅力を体感できるエリアとしての活用を図っていきます。

V. 分野別方針

1. 土地利用の方針

(1) 市街地の土地利用の方針

①集約的・効率的なまちづくり

市街地においては、将来都市構造で設定した「都市拠点」・「沿道商業ゾーン」の形成にもとづいた土地利用を進めていきます。

既存の土地利用をベースとしながら、用途地域・準防火地域・特別用途地区などの都市計画制度の適切な運用を図り、健全かつ秩序ある土地利用を推進していきます。

既存市街地内の未利用地や施設跡地、空き家等の有効活用を図り、コンパクトな市街地形成を推進していくとともに、「網走市公共施設等総合管理計画」における全市の公共施設の集約・統合や再整備等の方針と整合・連合を図りながら、市街地整備や土地利用を推進していきます。

長期的な土地利用については、今後の北海道横断自動車道網走線の供用など、網走市を取り巻く時々の土地利用上の課題や要請に対して柔軟な姿勢で対応していくものとします。

②自然環境・自然景観との共生

農地や森林、豊かな水辺といった自然環境や野生小動物の生息環境を守っていくため、自然環境と調和した土地利用を図っていきます。

また、網走市の特性を活かした自然エネルギーの活用に向け、近年立地が進行している太陽光発電所施設については、市街地を取り巻く良好な自然景観の阻害要因となることも懸念されることから、その整備に向けては、北海道の景観条例等に基づき、位置や規模・デザイン等への配慮を働きかけていきます。

③住宅・商業・工業の土地利用

住居系地域については、既存の用途地域指定をベースとして、網走市の人口定住を支える多様な受け皿として、地区特性に合わせた定住環境を継続的に保全していきます。

なお、潮見地区南部において、既存の用途地域に近接し一定規模の良好な住宅地としての土地利用が図られている箇所については、今後とも低層住宅を主体とする住環境を担保していくため、用途地域の指定のほか適切な規制・誘導策を検討します。

商業系地域については、中心商業地における商業地域の指定を継続するとともに、その周囲における中心部商業地域の補完的役割や、高台地区における生活利便性向上のための商業系施設の立地を容認する近隣商業地域の指定を今後とも継続します。

工業地域について、広域道路の沿道ほか準工業地域においては、今後とも交流施設や地場産業関連施設及び住宅等が立地するエリアとして指定を継続することを基本としつつも、川筋地区等においては周辺の建物立地状況やまちづくり上の位置付け等を勘案して、住居系用途への土地利用転換の必要性についても検討していきます。また、今後とも特別用途地区の指定を継続し、周辺の交通環境や都市構造に大きな影響を及ぼすことが懸念される大規模な店舗等を抑制し、健全な都市環境を維持保全していきます。

網走港においては、港湾計画との整合のもと埋立地の竣工にあわせて用途地域（工業地域）及び臨港地区と分区指定を行い、港湾物流や水産業など活発な産業活動を支援していきます。

また、みなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）が立地する川筋地区においては、中心市街地や「網走かわまちづくり」との連携のもと、交流機能の維持・強化を図っていきます。

（２）白地地域における土地利用の方針

都市計画区域内の用途地域の指定の無い地域（白地地域）においては、その特性に応じて継続的に建ぺい率・容積率の指定を行い、無秩序な都市的土地利用を抑制していきます。

白地地域の建ぺい率・容積率は、60/200、40/80 とともに、今後とも 30/50 を広く指定し住居専用地域以下の厳しい規制を行うことにより、小規模宅地における圧迫感のある建築物立地などの乱開発を今後も抑制し、自然環境と調和した土地利用を図っていきます。

「天都山エリア」については、網走の自然や地形を活かした新たな魅力発信の場所として、さらなる魅力づくりに向けて地域との協働の視点で取り組んでいきます。

呼人地域においては、様々な用途の建物が立地しており、一定程度の都市的土地利用がみられますが、当初マスタープラン策定時から大きな土地利用の動きはみられないことから、引き続き建ぺい率・容積率による形態規制を行いながら、必要に応じて「特定用途制限地域」等も含め適切な規制・誘導策を検討し秩序ある土地利用を図っていきます。また、呼人地域は「天都山エリア」の玄関口でもあることから、天都山エリアと一体的に捉えた魅力ある景観づくりを検討していきます。

図 白地地区の建ぺい率と容積率の指定状況

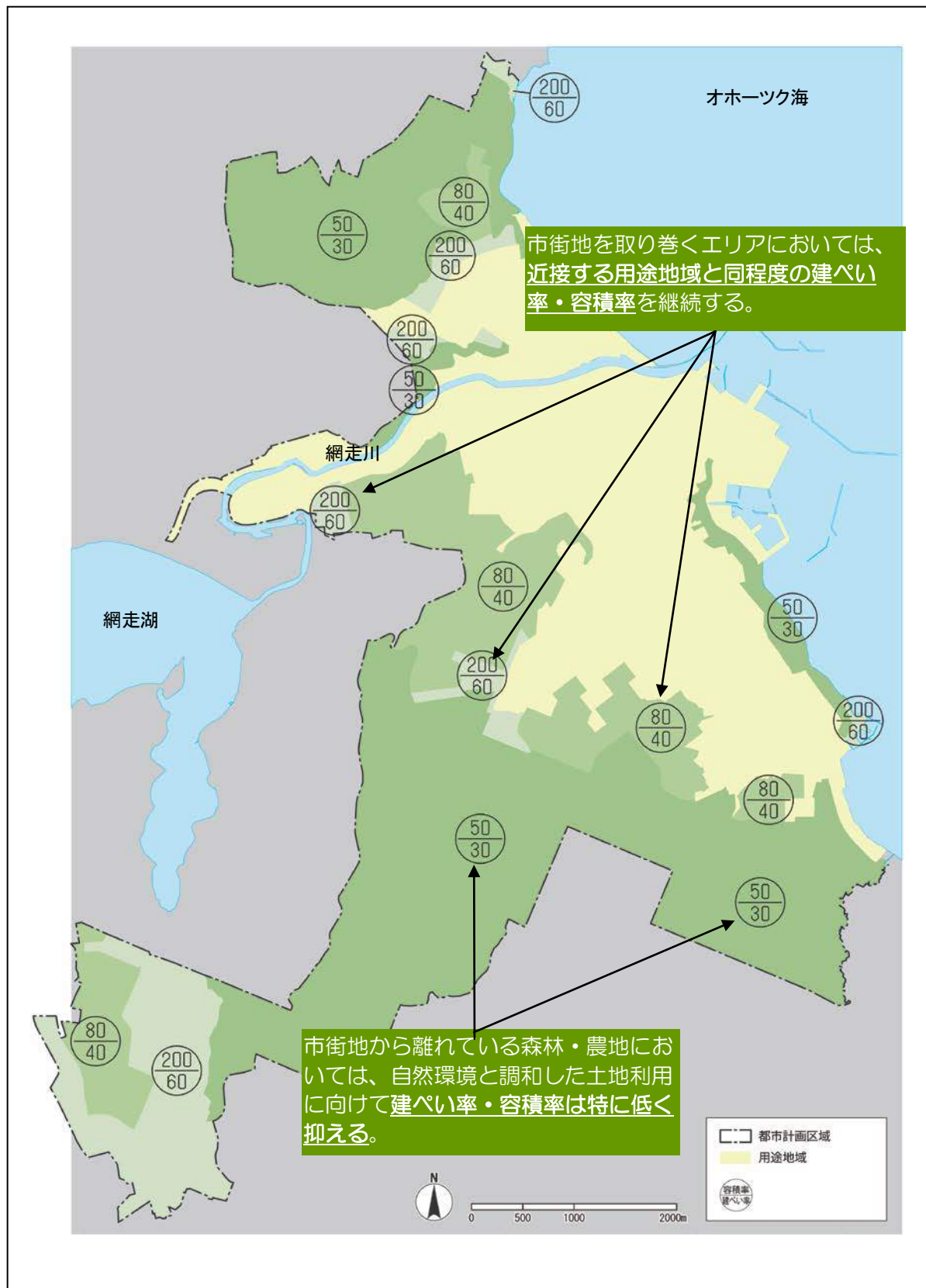


図 土地利用の方針



2. 交通ネットワークの方針

(1) 円滑な都市活動を支える骨格道路づくり

「北見網走都市圏の都市交通マスタープラン」を踏まえ、近隣都市との連携も視野に入れ、都市計画道路を中心にして円滑な都市活動を支援する道路網を構築していきます。

市街地を東西に連絡する「国道 238 号」や「国道 39 号」、「4 条通」及び「国道 244 号」とともに、中心市街地と高台地区を連絡する「3.3.3 本通」の 2 つの道路を骨格軸として位置付け、中心市街地内や、高台地区および大曲地区などの連携を強化します。

黒松内を起点とする北海道横断自動車道網走線における網走までの未整備区間の整備を推進し、広域とを連絡する高速かつ円滑な広域動線を確保し、産業交通・中心市街地とのネットワークおよび観光施設へのアクセス向上を図ります。また、IC から市街地方面を連絡する道路の整備にあたっては、住宅市街地における住環境の保全に十分配慮します。

(2) 未着手都市計画道路と新設道路の整備の検討

現在道路がなく長期にわたり整備がなされていない都市計画道路については、周辺の未利用地の利用方向や土地所有の状況・意向等を総合的に勘案した整備の可能性を含めた今後のあり方を検討していきます。

また、計画幅員が確保されていないなど一部が未整備となっている都市計画道路については、今後のまちづくりの方向との整合のもと今後のあり方について検討していきます。

潮見地区において車両の混雑や歩行者動線との錯綜がみられる箇所については、円滑かつ安全な交通処理に向けた走行環境の改善を行うとともに、さらなる走行の円滑化に向けて、鱒浦方向へ連絡するラダー状の新たな道路ネットワークの構築も検討を行います。

(3) 安全・安心な道路づくり

老朽化などによる安全性の低下や景観面での問題を有する道路については、周辺住環境の向上の観点や、周辺の公園緑地とのネットワークの状況や、通学路交通安全プログラム、市民のウォーキングルート、公共施設や医療施設などの立地状況等を総合的に勘案しながら、歩道・車道の再整備の優先度を検討していきます。なお、道路の整備や維持補修にあたっては、長期的な管理コストにも留意しながら、子どもから高齢者まで誰もが利用しやすく安全性に配慮した、ユニバーサルデザインの導入を検討します。

3.3.3 本通については、市街地の南北を繋ぐ生活幹線にふさわしい魅力ある空間形成を目指し、沿道商業ゾーンの軸道路として、車両交通の円滑化と歩行者の快適性の両面から捉えた再整備を検討し、沿道景観も含めて歩いて買物を楽しめる空間づくりを沿道の商業地との協力で進めていきます。

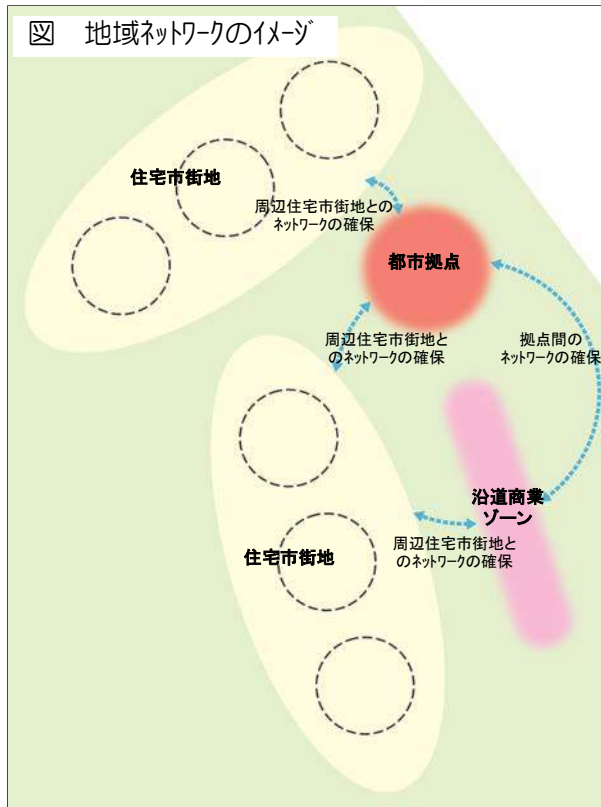
網走川沿いやそれに繋がる市街地内においては、「網走かわまちづくり」としてバリアフリー※にも配慮した連続性のある歩行空間やサイクリングロードの整備を行い、骨格軸・環境軸の機能強化とともに、中心市街地の回遊性を高めていきます。

(4) 公共交通網のあり方の検討

市民アンケート調査によると、網走市のまちづくりにおける各項目別評価において、公共交通に関する意見は、他の項目に比較して満足度が低い状況といえます。

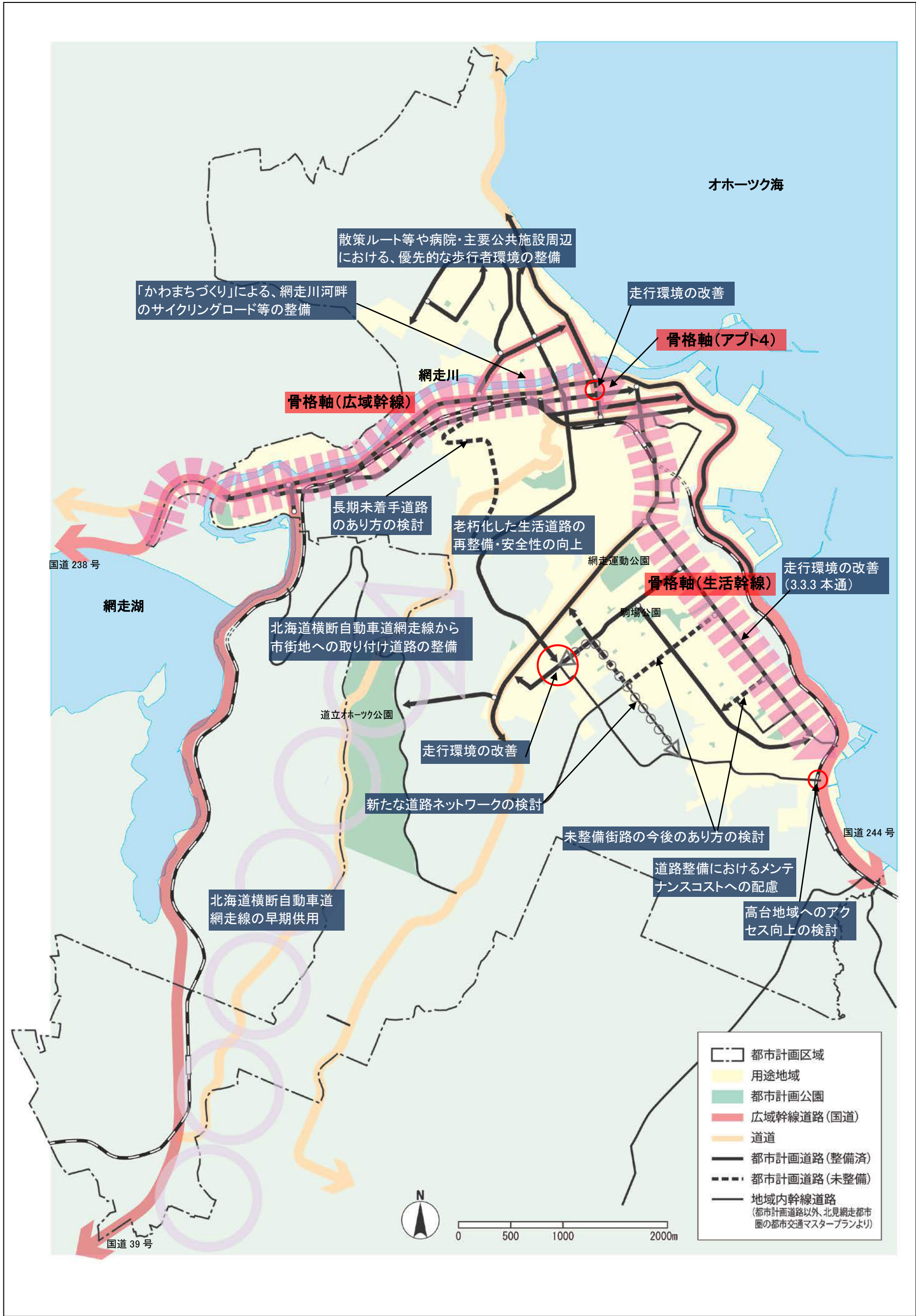
コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進める上で、公共交通（路線バス）の担う役割は大きいと言えることから、市民にとって移動しやすく利便性の高いバス路線の構築に向け、地域ニーズを継続的に把握していくとともに、行政・事業者・住民などの協力のもと、地区間の需要特性に適したバスの運行ルート等の見直しなど、今後のあり方について積極的な検討を行っていきます。

あわせて、バス・JR等の需要喚起にむけて、市民に親しみや関心を高めていくためのイベントや各種情報提供など、賑わいの創生に繋がるソフト施策も行っていきます。



右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

図 交通ネットワークの方針



3. 水と緑の環境形成の方針

(1) 水辺の環境軸づくり

網走川沿岸においては、都市の「環境軸」として「網走かわまちづくり」の事業を活用しながら遊歩道の整備や連続性の確保、サイクリングロード等の整備を進め、中心市街地におけるうるおい空間の形成を図るとともに、市内の東西を連絡する歩行者の軸形成を図っていきます。

また、これを契機にして、周囲に位置する観光・交流施設等と一体として、中心市街地におけるさらなる交流人口の増加に繋げていきます。

かつては国有地として立入りが制限されていた大曲湖畔園地は、現在は網走マラソンのゴール地点とされるなど、イベント広場として広く市民や観光客が楽しめる場所として活用されています。今後とも、新たな観光資源としての活用方向を探り、網走川の河畔と一体的に、まちづくりの面からの様々な活用方向を検討していきます。

(2) 森の環境軸づくり

道立オホーツク公園については、屋内遊具の充実のほか機能拡充とともに、今後は近接する天都山展望台オホーツク流氷館とのアクセス路の整備なども図り、周辺の天都山展望台オホーツク流氷館や天都山エリアと一体的に、呼人地域に繋がる「森の環境軸」として、丘陵地が織りなす豊かな自然景観を楽しめる店舗など、地域との協働の視点にて魅力向上に向けた取組みを進めていきます。

呼人地区においては、網走市街地の玄関口としての環境整備とともに、半島部における呼人探鳥遊歩道や小動物との触れ合いなど、自然色あふれる網走の魅力を体感できる環境の創出を行っていきます。

（３）まちの緑の環境づくり

市街地内には老朽化や若年層の減少等を理由にして、活用されていない公園も多いことから、「網走市公園施設長寿命化計画」等にもとづき、公園機能の見直しや集約とともに、市民ニーズに対応しながら新たな公園整備も進めていきます。

なお、公園の整備にあたってはユニバーサルデザインに配慮するとともに、今後の維持管理コストの削減にも考慮していきます。

市街地における安全快適な歩行者空間づくりにあたっては、「通学路安全プログラム」や「あばしり健康マイレージ」などの他分野の関連施策との連携を確保しながら、緑のネットワークを創出していきます。

「ウォーキングマップ」、「網走自然散策てくてくマップ」や「オホーツク・ファイน์・トレール ガイドマップ（東京農大生物産業学部）」などの活用とともに、住宅地や商業地に近接していながらも森林散策を楽しむことができ、また、流氷の季節には大氷原も臨める「こまば木の広場」など、既存の自然資源も再認識していきます。

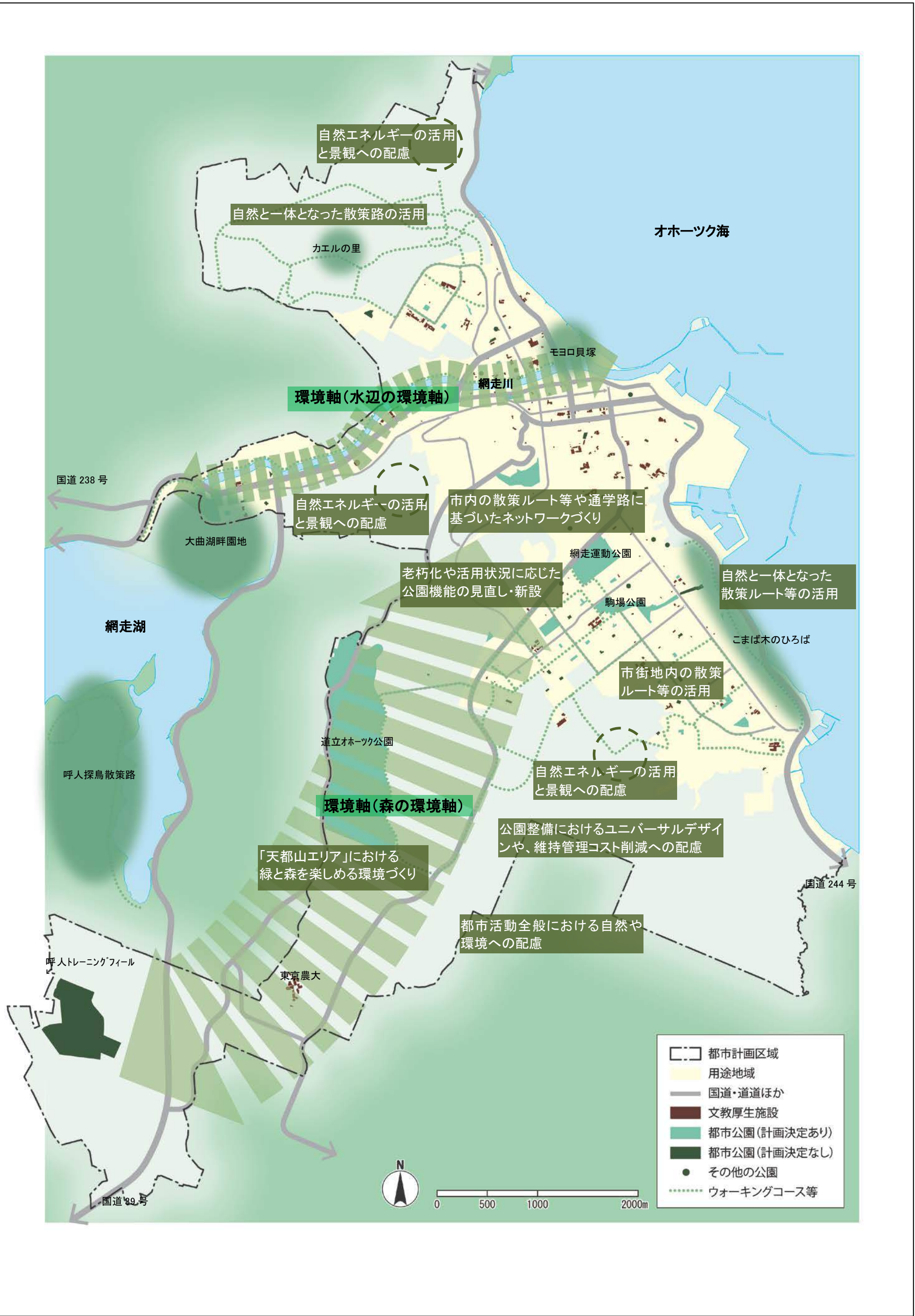
（４）まちの自然や環境を守り育てる

「環境軸」の位置付けにとどまらず、網走の行政・企業・市民の都市活動全般において、自然を守り環境に配慮したまちづくりを推進していきます。

「網走市フラワーマスター連絡協議会」や「花いっぱい運動」を通して、まちなかに緑があふれるうるおいある環境を創出していきます。

「まち美化サポーター」、「食べ残しを減らそう推進事業」、「エコ事業所認定」などを通して、日常生活における市民協働の取り組みを通して、環境に対する意識を醸成していきます。

図 公園緑地整備の方針図



4. その他都市施設等整備の方針

(1) 住宅・住環境

①基本的な考え方

- 子育て世帯、高齢者世帯など様々な世帯のニーズに対応した住宅・住環境づくりを支援していきます。
- 公営住宅については、適正な維持・管理を進めるとともに、老朽化している公営住宅の建替整備を進め良好な住環境の創出を図ります。

②整備方針

人口減少の中においても誰もが安心・快適に生活できるよう、「網走市住生活基本計画」等に基づいて、戸建て住宅エリアにおいては、低層住宅地の良好な環境を維持していくとともに、中心市街地におけるまちなか居住の継続、民間によるサービス付き高齢者住宅の普及啓発、また、子育て世帯に対しては、中古住宅のリフォーム支援や三世代で助け合う住環境の形成等への支援を行っていきます。

公的住宅については、全体の約5割を占める賃貸住宅需要の公的な受け皿として、「網走市公営住宅等長寿命化計画」に基づいて、改善事業や改修などの維持管理を推進するとともに、つくしヶ丘団地や潮見団地といった特に老朽化が進行している大規模団地の建替にあたっては、周辺住宅地のまちなみ景観の創出や、生活利便性の向上にも配慮していきます。

(2) 港湾

①基本的な考え方

- 北網圏の農業・水産業・食品加工・木材加工等の地域産業を支える物流拠点としての機能の維持強化を進めます。
- 市街地と一体的に、市民や観光来訪者が憩い、集い、楽しむことができる空間づくりを行います。
- 災害時における緊急物資輸送拠点としての役割の充実・強化を図ります。

②整備方針

「網走港港湾計画」などに基づき、北網圏を背後圏とした海上物流の拠点港として、地域の内貿物流需要に対応する施設整備を継続的に進めていきます。

流水観光砕氷船「おーろら」のターミナルとして、また飛鳥Ⅱやばしふいっくびい

なす等の国際クルーズ船立ち寄り港として、魅力ある環境づくりを行うとともに、モヨロ貝塚館を活用した地域文化の発信地としても利用していきます。

みなとが生み出す自然と歴史に育まれたすばらしい景観を望むことができる網走港の魅力を維持するため、特にモヨロ地区及び川筋地区を中心とする地域において、周辺の史跡などの保全、まちづくりと一体となった水辺空間及び美しい景観の維持に取り組んでいきます。

市街地に近接する港町地区においては、耐震強化岸壁などの整備により大規模地震対策を推進します。

（３）下水道

①基本的な考え方

○都市的土地利用との方向性との整合を図りながら、公共水域の水質保全、浸水防止、快適かつ衛生的な生活環境の向上にむけて、公共下水道の計画的な整備ならびに管理を進めていきます。

②整備方針

公共下水道の整備を推進し処理面積の拡大を図るとともに、老朽化した下水道施設の改築更新を行います。

（４）その他都市施設

①市場

野菜・果物の生鮮食料品の安定供給に向けて、昭和 56 年度に計画決定を行った「網走青果地方卸売市場」の今後の方向性について検討を行います。

②火葬場

老朽化のために、平成 21 年度に計画決定を行った「八坂火葬場」について、今後とも適切な維持管理を進めていきます。

③廃棄物処理施設

平成 27 年 7 月に計画決定を行った「一般廃棄物処理施設」について、平成 29 年 4 月から一部供用を開始し適切な運営・維持管理を進めていきます。

(5) 河川

①基本的な考え方

- 治水機能の保全に向け、整備を促進していきます。
- 網走市の大切な財産である豊かな水辺を保全・活用していきます。
- 河川の持つ親水機能に配慮し、魅力の向上を図っていきます。
- 網走川においては、市街地の骨格を構成する環境軸として緑化を推進していくとともに、中心市街地と一体として人々に安らぎを与える空間を創出していきます。

②整備方針

未改修河川の整備に努める。河川改修にあたっては、自然の軸として自然体系を損なわないように生態系に配慮した工法などにより改修を図ります。

網走川における「網走かわまちづくり」を進め、市街地における緑のネットワークを形成します。

河川の清掃や水生動物の観察など、市民参加のまちづくりの媒体として河川の利活用を図ります。

5. 災害に強いまちづくりの方針

(1) 災害に強いまちづくりの基本的な考え方

- 「網走市地域防災計画」にもとづいて、より実践的な防災体制の確立を図ります。
- 市民の生命や財産を大雨などの自然災害や火災から守り、市民が安心して生活できる環境づくりを行います。

(2) 都市防災の方針

市民の生命と財産を地震、津波、大雨・洪水・暴風雪・土砂災害や火災などの災害から守るために、地域防災計画にもとづき体制整備を図ります。

がけ崩れなど災害の危険のある地区においては、宅地化の抑制とともに災害予防策を講じていくとともに、急傾斜地崩壊危険区域における斜面の安全性を確保します。

防災ガイドブック※やハザードマップ※等を活用し、市民の防災意識の高揚を図るとともに、近隣住民の協力による防災組織などの育成・強化を図ります。

大規模な火災発生を未然に防止するため、準防火地域など都市計画制度の適切な運用を図ります。

集中豪雨に伴う土砂崩壊や道路の冠水に対して、予防保全的な対応等も含め災害被害を最小限にしていきます。

右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

VI. 地域別構想

1. 地域別構想の策定にあたって

(1) 地域区分

網走市都市計画マスタープランにおいては、市街地の特性や全市における位置づけ、字界また地形条件などにより、都市計画区域内を5つの地域に分けて将来の構想づくりを行いました。

(2) 地域別構想ワークショップの開催経緯

地域別構想の策定に際しては、平成14年度の当初計画の策定時に、地域の住民の方々の参加のもとワークショップを開催しながら進めました。

図 地域別構想策定の流れ（当初計画策定時）

第1回 テーマ：地域における、「守りたいもの」、「活かしたいもの」、「あったらいいもの」、「ないほうがいいもの」について

第2回 テーマ：地域の資源の見直し、地域のテーマキャッチフレーズについて

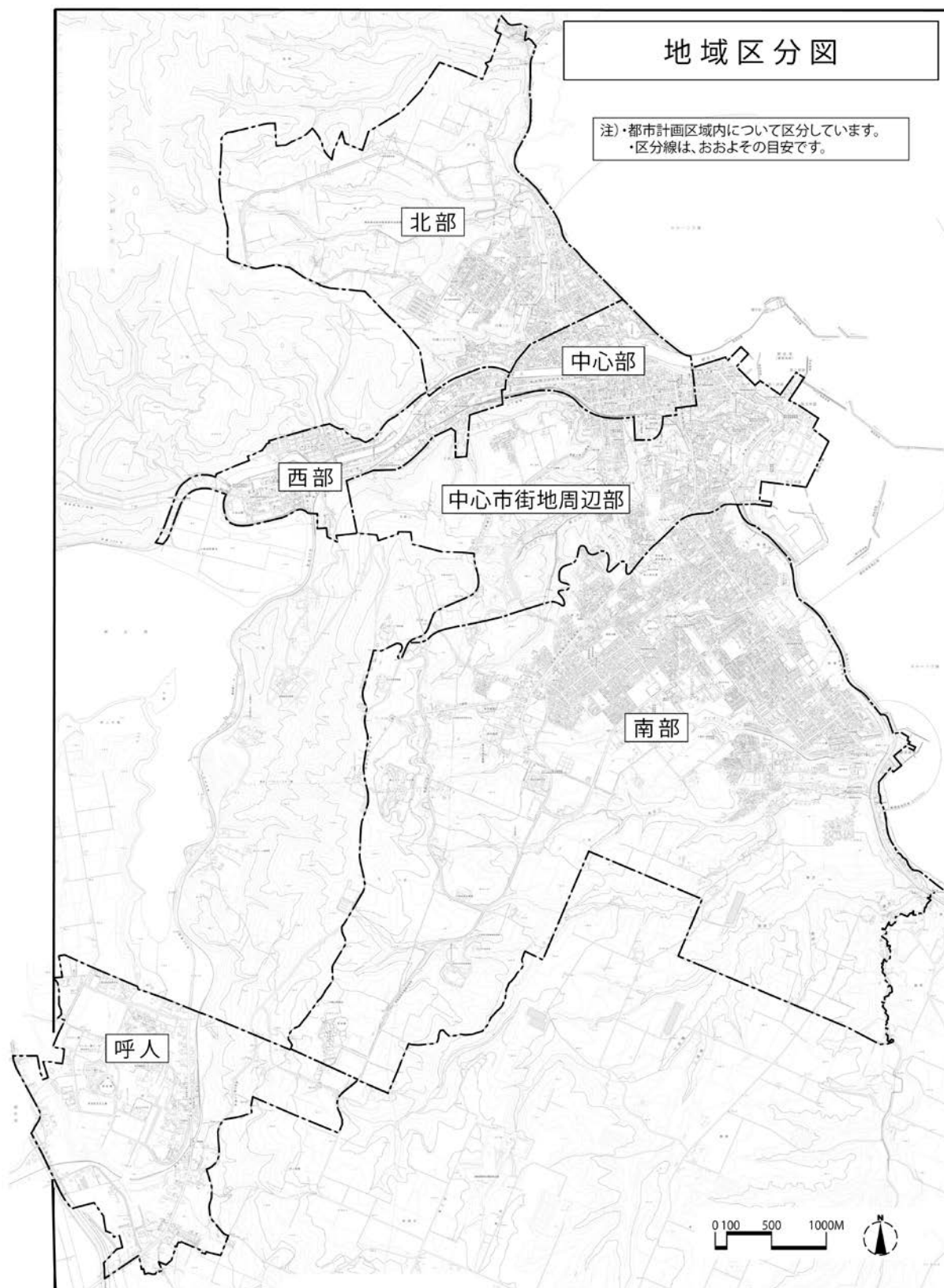
第3回 テーマ：地域のテーマキャッチフレーズの見直し、構想図の作成について

第4回 テーマ：キャッチフレーズの設定、構想図の見直しについて

第5回 テーマ：キャッチフレーズの設定、構想図の見直しについて（中心部周辺地域・西部地域のみ）

本見直し過程においては、上述の様に、各地域の住民ワークショップにより作成した内容（H14年度）を基礎としながら、地域ごとの現状に合わせた時点修正とともに、前段の「Ⅳ.全体構想」や「Ⅴ.分野別方針」等にもとづいた修正を行いました。

このような当初の策定経緯から、特に各地域の「地域の声」などにおいては、それぞれの地域で表現や体裁等が異なる部分があります。



2. 「まちづくりの目標」との関連

全体構想の「まちづくりの目標」と、次ページ以降に展開する地域別の「まちづくりの基本方針」との間には、以下に示すような関連があります。

地域名	地域のまちづくりの基本方針	全体構想のまちづくりの目標		
		①豊かさを 実感できる まち	②人と人との 交流が あふれる まち	③自然を守 り、育てる まち
北部 地域	①豊かな自然環境の保全・活用			★
	②だれもが安心して住める安全・快適な 定住環境づくり	★		
	③ここにしかない魅力の活用・アピール			★
中心市 街地	①商業・アプト4の魅力向上	★		
	②まちなか居住の推進	★		
	③便利で快適な中心部づくり	★		
	④自然・歴史など網走らしさの活用	★		
	⑤にぎわい交流の場の創出		★	
中心市 街地 周辺 地域	①便利で快適な定住環境の確保	★		
	②新たな土地利用の展開	★		
	③みなとの整備・活用	★		
	④環境にやさしい「サイクリングネットワークのま ちづくり」の推進			★
西部 地域	①居住環境の保全と向上	★		
	②国道39号沿道の魅力づけ	★		
	③地区資源の保全と活用			★
	④環境にやさしい「サイクリングネットワークのま ちづくり」の推進			★
南部 地域	①市街地周辺の自然環境の保全			★
	②良好で利便性の高い住環境の維持	★		
	③憩いある歩行者ネットワークの形成	★		
呼人 地域	①自然環境の保全			★
	②自然空間でのレクリエーション機能の向上			★
	③市街地の街並み景観形成	★		
	④住民協力体制の強化、住民活動の促進		★	

★：主要な対応部分

3. 地域別まちづくりの方針

(1) 北部地域

①地域の現況

北部地域は、網走川河口左岸側の国道39号より北側に位置する地域で、中心市街地と面的に一体的な市街地と背後の丘陵地及びオホーツク海に面する海岸部で構成されています。

地域内において、海岸部では水産加工を主体とする工業施設と住宅が混在しており、また、国道39号沿道には行政施設などが立地していますが、その他の市街地は住宅が中心となっています。

地域の人口は減少傾向にあります。世帯数は横ばいの状況であり、近年10ヵ年では特に向陽ヶ丘において70件程度と多くの専用住宅の新築がみられます。

今後は、幹線道路の沿道、海岸部など住宅以外の土地利用が図られている地区以外においては、将来的にも安定的な住宅地として、安全で快適な定住環境の創出を図ることが必要となっています。

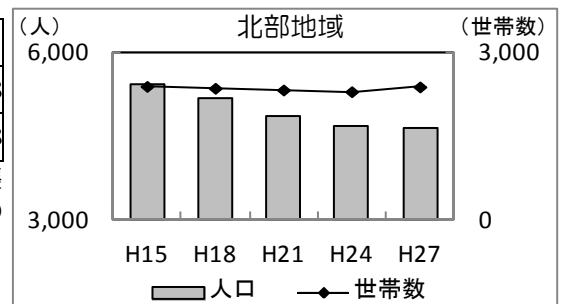
また、明治地区においては、平成27年度に都市計画決定が行われた「一般廃棄物処理施設」の整備を進めていくとともに、郊外部の太陽光発電施設の立地に関しては周辺の自然景観に配慮したものとしていくことが必要です。

■北部地域の人口、世帯数の推移

	平成15年	平成18年	平成21年	平成24年	平成27年
人口	5,425	5,160	4,857	4,666	4,648
世帯数	2,387	2,354	2,323	2,293	2,378

資料：住民基本台帳

注) 住民基本台帳調査区域のうち、「北東」と「北西1～8」区域の合計値の半数と、「海岸町」「緑町」「向陽ヶ丘」「字明治」「ニツ岩」の値を合わせた数値を北部地域の人口、世帯数としている。



②地域の資源

壮大なオホーツク海を望む北部地域では、青々と広がる夏の海や一面が流氷で覆われるオホーツクならではの冬の姿など、四季折々の海の様子を間近に感じることができます。特に、高台部にある向陽ヶ丘の住宅地ではオホーツク海を展望できるポイントが随所にあり、自然を満喫できる暮らしを楽しめます。

一方、向陽ヶ丘の北側に広がる農地と樹林の緑地空間は、身近に自然を体感できる憩い空間となっており、さらにこれら緑地内の林道沿いには、「カエルの里」と呼ばれる池・湿地があり、貴重な自然観察の場となっています。

そのほか、医療・福祉関係施設などの集約的な整備が図られており全市的な医療・福祉支援の拠点としての役割を担っているとともに、地域のコミュニティ拠点としては「向陽ヶ丘住民センター」が立地しています。

③まちづくりの将来像

北部地域のまちづくりにあたっては、自然に囲まれたうるおいある居住拠点地区として、自然の保全と良好な住環境の維持・増進を目指します。

このことから、本地域のまちづくりの将来像を

『みんなでつくる網走のモデルタウン』

とし、海・山・川と一体感のある自然色豊かな環境を確保しながら、市の良好な住環境のモデルとなる地域の形成を目指します。

④まちづくりの基本方針

将来像の具体化にむけて、以下の基本方針を柱としたまちづくりを展開します。

1) 豊かな自然環境の保全・活用

まちの宝であり貴重な憩い空間であるオホーツク海の海岸部においては、人々にとっての安心・快適な親水空間として、再生にむけた海岸部の環境や景観の保全に努めます。

また、明治・向陽ヶ丘に広がる山林・農地は、豊かな自然を身近に親しめる緑地空間としてその景観や環境保全に努めながら、自然体験の場としての活用を行っていきます。

2) だれもが安心して住める安全・快適な定住環境づくり

市街地中心部の商業地に近接し「川向い」の住宅地として比較的早くから市街化が進んだエリアでは、一部で狭隘な道路や老朽住宅の密集などがみられますが、ゆとりと安全性を確保した住環境の創出と広域的な都市防災上の観点から、適切な市街地環境への改善に努めます。

また、高台部の向陽ヶ丘に形成されている住宅地エリアでは、良好で快適な定住環境の維持・保全を進めるとともに、「向陽ヶ丘住民センター」については「身近な生活拠点」としての活用を図っていきます。

さらに、中心部と連続した住宅市街地では、医療・福祉サービス拠点との連携のもと、その機能の維持・強化により、高齢者も安心して生活できる住環境を継続的に形成していきます。

そのほか、海岸部については、水辺環境への配慮とともにオホーツク海を望む水辺の散策ルート等として活用を図っていきます。

3) ここにしかない魅力の活用・アピール

長く伸びる海岸線や静かさと落ち着きを味わえる山林空間の魅力を再評価し、散策ルート等の活用などによる親水・親緑環境の向上に努め、網走の自然の豊かさを満喫できるまちの宝としての認識を共有できるよう取り組みを進めます。

◇◇◇北部地域のまちづくり構想◇◇◇

【まちづくりの将来像】

北部地域の現況・特性

- ・海・山・林・畑と自然が豊富
- ・高台で新築住宅の立地が進められている
- ・いろいろな観光・交流ポイントがある
- ・全市的な福祉施設・公共施設が充実している
- ・学校が多い
- ・野生の動物が多く見られる

北部地域の声

- ・国道39号沿道がさびしい
- ・日常生活のための商店が少ない
- ・公園が少ない
- ・接道が不備な住宅が一部に見られる
- ・公共施設等に駐車場が少ないところがある

網走の奥座敷

網走のモデルとなる地域

自然に囲まれ
生き生きとした
住環境づくり

みんな
でつくる
網走の
モデル
タウン

自然(山・海・川)
と一体感のある
まち

網走を小さくし
たようなところ

いやしのまち

【まちづくりの基本方針と主要な取り組み】

◆豊かな自然環境の保全・活用

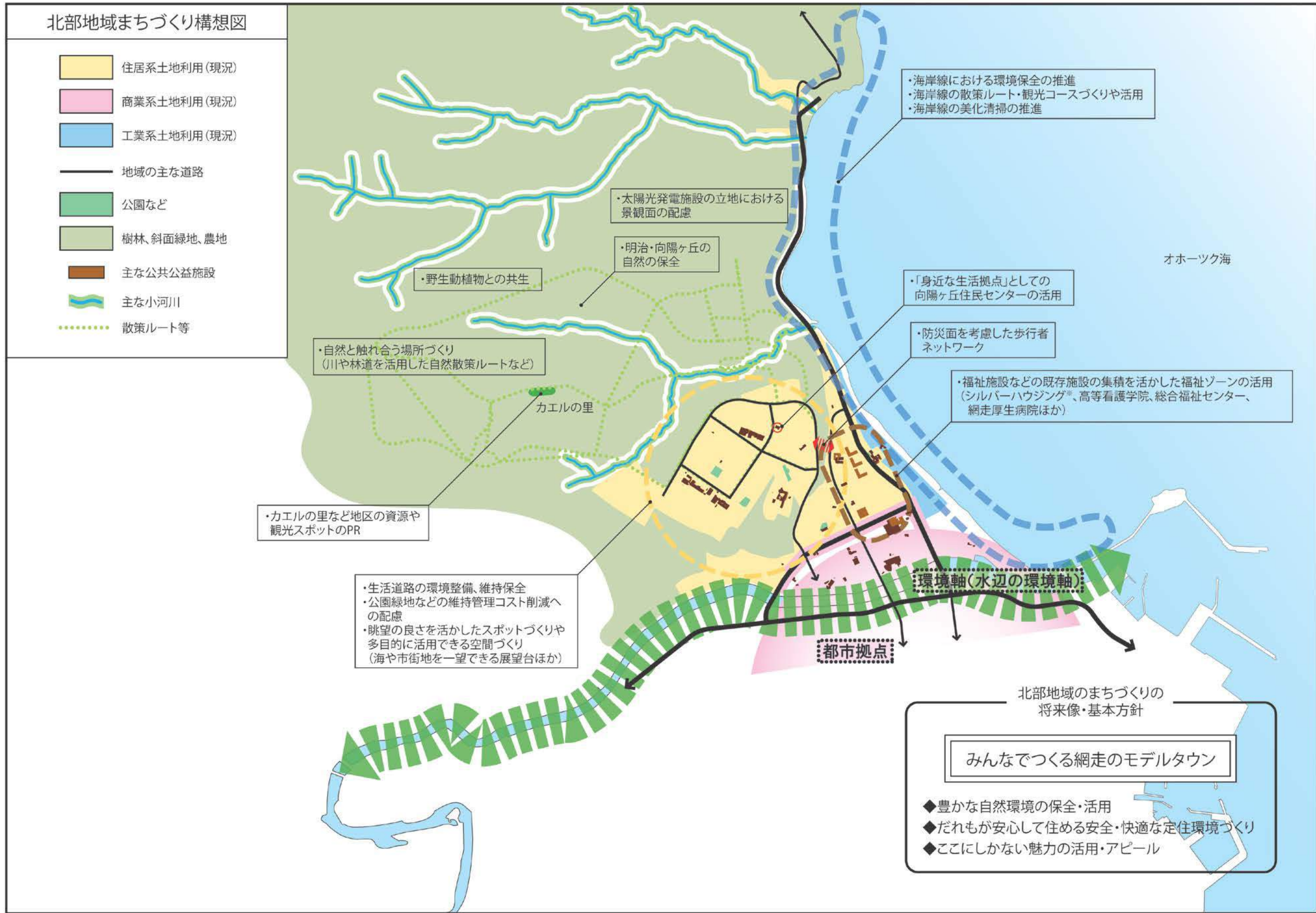
- ・明治・向陽ヶ丘の自然を保全する
- ・野生動植物との共生を図る
- ・海岸線における環境保全の推進
- ・自然と触れ合う場所づくり(川や林道を活用した自然散策ルートなど)

◆だれもが安心して住める安全・快適な 定住環境づくり

- ・生活道路の環境整備・維持保全
- ・自然の地形と緑を残した特色ある住宅づくりの検討
- ・防災面を考慮した歩行者ネットワーク
- ・公園緑地などの維持管理コスト削減への配慮
- ・身近な生活拠点の活用、福祉施設などの既存施設の集積を活かした福祉ゾーンとの連携

◆ここにしかない魅力の活用・アピール

- ・地域の資源や観光スポットのPR(カエルの里ほか)
- ・海岸線の散策ルート・観光コースづくりや活用
- ・海岸線の美化清掃の推進
- ・眺望の良さを活かしたスポットづくり(海や市街地を一望できる展望台)



右肩に「※」印のある文言は、96～97 ページに「用語の説明」があります

(2) 中心市街地・中心市街地周辺地域

①地域の現況

網走市の中心市街地は網走川河口部に位置しており、その周辺地域は中心市街地の南側に隣接する丘陵部を含んだ住宅地と、網走港で構成されています。

当地域は、都市としての行政機関や金融機関・医療機関などの多様な機能が備わっているとともに、交通の要衝となっており、網走だけでなくオホーツク圏にとっての中核機能が集積している地域となっています。

中心市街地では、基礎的都市基盤の整備充実と立地環境を踏まえた土地利用転換などが期待されており、近年はみなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）、モヨロ貝塚館の整備とともに、借上げ型も含めた定住人口の受け皿となる公営住宅の整備も行われています。また、その周辺に位置する住宅市街地は生活上の利便性が高い立地環境を有しています。

しかし一方で、中心市街地の核となる店舗が閉店するなど地域の利便性の低下が懸念され、人口・世帯とも減少傾向が続いています。

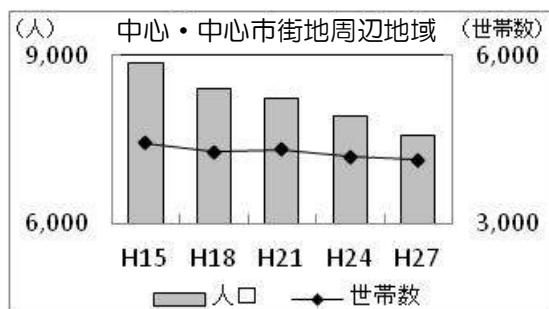
中心市街地及び周辺地域では、将来においてもこれら既存の都市機能集積を活かし、オホーツク圏における行政・産業・交流などの拠点としてふさわしい高度な土地利用と都市基盤の充実を促進していくことが求められます。

■中心市街地及び周辺地域の人口、世帯数の推移

	平成 15 年	平成 18 年	平成 21 年	平成 24 年	平成 27 年
人口	8,856	8,392	8,215	7,905	7,582
世帯数	4,423	4,272	4,312	4,189	4,124

資料：住民基本台帳

注）住民基本台帳調査区域のうち、「北東」と「北西1～8」区域の合計値の半数と、「南東」「南西」「台町」「桂町」「天都山・字天都山」「錦町」「港町」の値を合わせた数値を中心市街地及び周辺地域の人口、世帯数としている。



②地域の資源

地域内を流れ網走のまちの発展を支えてきた網走川では、市民が思い思いに散策を楽しんでいるほか、みなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）等の観光拠点も立地しており、今後は「網走かわまちづくり」の推進により散策ルート等やサイクリングロードなどの親水空間の整備が進められます。また、プレジャーボートなどのけい留地としても利用されているほか、夏は祭りやイベントが開催され網走の「涼」を満喫できます。

冬にはオホーツクの冬の観光名物となっている流水観光砕氷船「おーろら」の運行が行われ、新たに整備されたターミナルは、毎年国内外からの多くの人々に利用されています。

また、早くから開けた集落地帯として様々な歴史・文化遺産が点在しており、河口部にはオホーツクの先住民族の生活跡などが保存されるモヨロ貝塚・モヨロ貝塚館があるほか、中心市街地を見下ろす南側の高台では、緑あふれる環境のなかで歴史ある神社や郷土博物館などの文化施設が集約しています。

そのほか、網走川に面して文化・交流・学び等の機能を併せ持ったオホーツク・文化交流センターが市民の憩いの場として利用されているほか、地域のコミュニティ拠点として「北コミュニティセンター」などの立地もみられます。

③中心市街地のまちづくりの将来像

（「網走市中心市街地活性化基本構想」による）

中心市街地のこれからのまちづくりにむけては、「網走市中心市街地活性化基本構想」において設定されている、

『めざそう!! 歩いて暮らせるまちづくり ～出会い・ふれあいの中心市街地～』

の将来像のもとで、回遊性の創出や定住人口の増加及び都市機能の充実・強化、さらには観光客などとの交流促進を目指します。

また、「都市拠点」としての位置付けのもと、中枢機能の確保とともに都市拠点内や市内各所を連絡する、利便性の高い公共交通ネットワークの検討を行います。

④中心市街地周辺地域のまちづくりの将来像

中心市街地周辺地域のこれからのまちづくりにあたっては、立地条件の良さを活かした、多くの機能を有する、利便性の高い地域づくりを目指します。

このことから、本地域のまちづくりの将来像を

『個性を活かした多機能タウン～自然と文化とくらしとの融合』

とし、海・住宅地・歴史的施設・教育施設など多様な顔をもつ地域として、各々の機能が調和・融合した個性的なまちづくりを進めます。

⑤中心市街地周辺地域のまちづくりの基本方針

将来像の具体化にむけて、以下の基本方針を柱としたまちづくりを展開します。

1) 便利で快適な定住環境の確保

歴史があり基本的な都市基盤が備わっている市街地環境について、今後の居住者動向や地域の役割を踏まえながら、よりよい公共交通網の検討や「北コミュニティセンター」を「身近な生活拠点」としての活用を図っていくことなどより、利便性の高い定住環境の維持に努めます。

そして、中心部との近接性による生活利便性や中心市街地の活性化を支える住宅地としての居住ニーズを踏まえた住宅地づくりを推進します。

また、中心市街地活性化との連動のもと、回遊性のある魅力ある地域の創出にむけ、歴史・文化ゾーンの活用と保全に努めます。

2) 新たな土地利用の展開

本地域内には、近年の居住者動向などの変化に伴って大小の未利用地が点在していますが、その立地環境としての利便性の高さ、眺望の良さなど、海や山と身近な環境、さらには産業活動などにおける優位性を活かした有効な土地利用の展開を検討します。

また、地域間連携の主要ルートとなる西山通の整備をインパクトとして、周辺部においては住居系を中心とした土地利用の推進を図ります。

3) みなとの整備・活用

網走市及びオホーツク圏での産業・物流拠点として重要な役割を担う網走港では、地域の産業活動などの活性化と飛躍にむけて、港湾拡張に伴う適切で効果的な施設整備を図ります。

併せて、現在の土地利用実態を踏まえ、都市的土地利用と港湾土地利用の区分の明確化（臨港地区内の分区の見直し）を進めます。

また、市街地との近接性を踏まえて、港湾施設を市民にとっての身近な親水空間として開放し、環境整備を行います。

4) 環境にやさしい「サイクリングネットワークのまちづくり」の推進

（※西部地域との共通方針）

「網走かわまちづくり」事業の推進と一体的に、自然環境に配慮した網走らしい暮らしを実践する先導的な取り組みとして、中心市街地から西部地域までの市街地を貫く網走川河畔における既存のサイクリングロードについて、サイクリングやウォーキングをはじめとした日常的なレクリエーション空間としての整備や積極的な活用を促進します。

◇◇◇中心市街地・中心市街地周辺地域のまちづくり構想◇◇◇

中心市街地の現況・特性

- ・全市及びオホーツク圏の行政・金融・医療機能等の中心地
- ・JR駅、バスターミナルが位置している
- ・商業施設が集積しているが、近年核となる店舗が閉鎖
- ・市民及び広域交流の核施設が位置している
- ・定住人口の減少が進んでいる

中心市街地の声

- ・商店街景観や個店の魅力に乏しい
- ・観光客などの中心地への立ち寄りが少ない
- ・既存の公園・緑地の利用が少ない
- ・道路環境や空き地の点在など、中心部の都市機能上の改善が必要
- ・快適な歩行者環境が必要
- ・交通結節機能が不備

中心市街地周辺地域の現況・特性

- ・市内で早くから形成された住宅市街地
- ・重要港湾網走港を擁する
- ・中心部とのアクセス利便性が高い
- ・歴史・文化関連施設(博物館、史跡など)が点在している
- ・未利用地がいくつかみられる
- ・一部エリアは鉄道・地形により中心部と分断されている

中心市街地周辺地域の声

- ・比較的歴史のある住宅地として将来にわたって安心できる住環境の維持が必要
- ・生活利便性の高さを活かした住宅地づくりが求められている
- ・良好な立地環境にある大規模な未利用地(公営住宅跡地)が残されている
- ・港湾内における貴重な水辺空間としての機能の充実に期待されている
- ・網走市及びオホーツク圏の重要な産業・物流拠点としての網走港の港湾機能の強化が必要

「網走市中心市街地活性化基本構想」より

【まちづくりの将来像】

めざそう！！歩いて暮らせるまちづくり～出会い・ふれあい中心市街地～

【まちづくりの将来像】

【まちづくりの基本方針と主要な取り組み】

◆便利で快適な定住環境の確保

- ・生活道路の環境整備・維持管理、公園緑地などの維持管理コスト削減への配慮
- ・公共交通網の再検討や身近な生活拠点の活用など、利便性の高い居住環境づくり
- ・歴史・文化ゾーンの保全と活用

◆新たな土地利用の展開

- ・眺望などの立地特性や利便性を活かした土地利用の検討
- ・西山通の整備を契機とした周辺の土地利用の促進

◆みなとの整備・活用

- ・港湾計画に基づく網走港の整備と活用促進
- ・現在の土地利用を踏まえた都市的土地利用と港湾土地利用区分の明確化(臨港地区内の分区の見直し)
- ・市民や観光客が憩える、みなととのふれあい空間づくり

◆環境にやさしい「サイクリングネットワークのまちづくり」の推進 ※西部地域との共通方針

- ・「網走かわまちづくり」の推進
- ・網走川河畔をつなぐサイクリングコースの活用(冬はクロスカントリーコースとして利用)
- ・自転車利用を促進する環境づくり

個性を活かした多機能タウン

自然と文化とくらしの融合

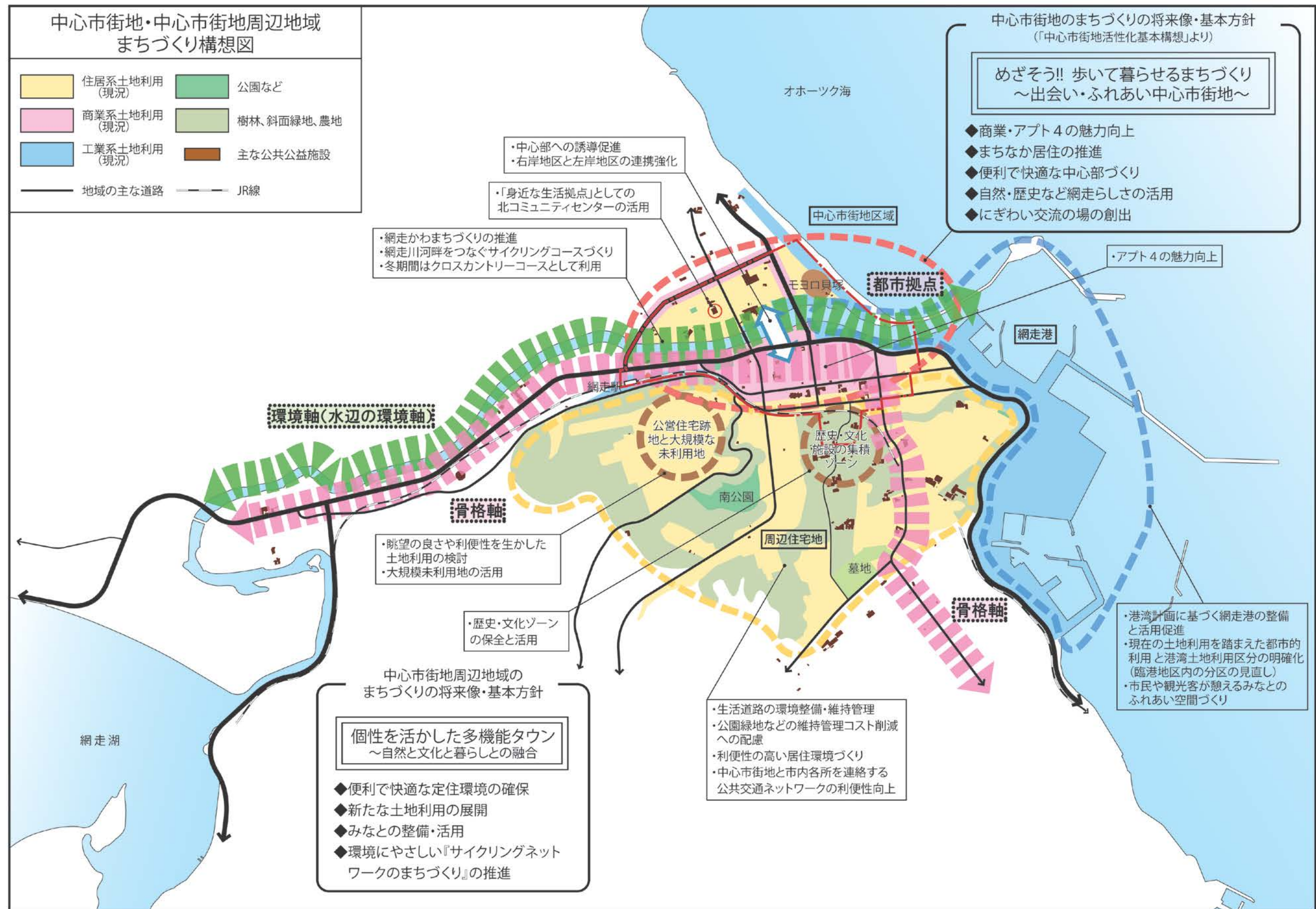
港があるまち

アメニティ※
機能が高いまち

身近で便利なまち

車に頼らずに歩いて暮らせるまち

便利で何でもそろうまち



(3) 西部地域

①地域の現況

西部地域は、市街地の西側に位置し、国道沿道に細長く形成された市街地です。

地域の市街地現況としては、国道に沿って一般住宅や沿道型商業施設、自動車修理工場などが混在しているほか、周囲を網走川に囲まれた地域の西端部は公営住宅団地を中心とする住宅地となっており、さらに川を挟んだ対岸部には網走刑務所が位置し、その関連施設が建ち並んでいます。

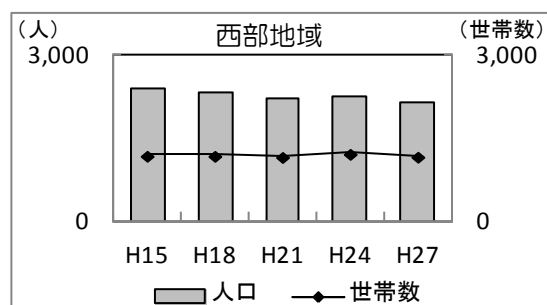
当地域は地形条件から市街地の拡大は困難なエリアであり、居住者の推移をみると年々減少が続いています。

■西部地域の人口、世帯数の推移

	平成 15 年	平成 18 年	平成 21 年	平成 24 年	平成 27 年
人口	2,383	2,318	2,217	2,258	2,144
世帯数	1,192	1,191	1,171	1,227	1,175

資料：住民基本台帳

注) 住民基本台帳調査区域のうち、「新町」「大曲」「字三眺」の合計値を西部地域の人口、世帯数としている。



②地域の資源

網走湖に面して広大に広がる大曲湖畔園地は、水と緑が豊かな市民の財産として位置付けられるものであり、住宅地と隣接した立地環境も踏まえた有効活用が期待されます。

西部地域市街地の軸となる国道に沿って平行して流れる網走川と、その対岸に続く丘陵地の緑の連なりは、川と緑に育まれた網走の独特の市街地景観を有しています。

そのほか、住宅団地に近接して地域のコミュニティ拠点として「西コミュニティセンター」や養護老人ホームが立地しているほか、網走川の河川敷にはボート競技関連施設、国道 39 号の北側沿道には日本体育大学付属高等支援学校も立地しているなど、緑豊かで落ち着きある住環境とともに特色のある施設の立地がみられます。

③まちづくりの将来像

西部地域のこれからのまちづくりにあたっては、網走市街地の玄関口として、また、「骨格軸」と「水辺の環境軸」の位置付けのもと、水辺と緑と調和したうるおいある市街地の形成を目指していきます。

このことから、本地域のまちづくりの将来像を

『流れのほとりのやすらぎタウン』

と設定し、網走川のやすらぎ空間や大曲湖畔園地などの地域の資源を活かしながら、立地特性を踏まえた地域づくりを進めます。

④まちづくりの基本方針

将来像の具体化にむけて、以下の基本方針を柱としたまちづくりを展開します。

1) 居住環境の保全と向上

中高層の集合住宅団地を中心とする西部地域の住宅地においては、網走湖に近接し周囲を網走川で囲まれている恵まれた居住環境を大切に、水と緑が豊かで快適な生活空間の確保を図るとともに、養護老人ホームの整備により多様な世代が住み続けられる地域を目指します。

また、生活利便性の向上にむけて、「西コミュニティセンター」を「身近な生活拠点」としての活用を図っていくとともに、大曲地区への近隣商業施設の誘導など生活関連機能の充実に努めます。

2) 国道39号沿道の魅力づけ

市街地中心部へ続く国道沿道では、「骨格軸」と「水辺の環境軸」として、平行して流れる網走川との一体感などに配慮した緑化や沿道土地利用、沿道施設の環境整備などにより、オホーツクの中心的な都市としての個性ある街並み景観形成に努めます。

3) 地区資源の保全と活用

大曲湖畔園地については、網走川・湖における治水機能の向上に配慮しながら、魅力ある空間の創出を行っていきます。

4) 環境にやさしい「サイクリングネットワークのまちづくり」の推進

(※中心市街地・中心市街地周辺地域との共通方針)

「網走かわまちづくり」事業の推進と一体的に、自然環境に配慮した網走らしい暮らしを実践する先導的な取り組みとして、中心市街地から西部地域までの市街地を貫く網走川河畔における既存のサイクリングロードについて、サイクリングやウォーキングをはじめとした日常的なレクリエーション空間としての積極的な活用を促進します。

◇◇◇西部地域のまちづくり構想◇◇◇

【まちづくりの将来像】

西部地域の現況・特性

- ・網走市街地の玄関口に位置する
- ・国道沿道及び網走川に沿って形成される線状の市街地
- ・住宅地は中高層の公営住宅が主体
- ・国道沿いには自動車販売店や修理工場等が立地
- ・住宅地を取り巻くように網走川が流れている
- ・イベント会場や農業体験できる大曲湖畔園地が位置する

西部地域の声

- ・住宅地に近接した日常利便施設が少ない
- ・生活に身近な網走川と積極的に触れ合える機能が少ない
- ・国道沿道での魅力ある街並みに乏しい
- ・市民財産として大曲湖畔園地の多様な活用が必要

「網走に帰ってきた！」と思えるまち

来訪者をもてなすまち

水辺と緑のまち

やすらぎの里

ウェルカムタウン※

ほっとできる

流れのほとりのやすらぎのまち

【まちづくりの基本方針と主要な取り組み】

◆居住環境の保全と向上

- ・網走川をはじめとする自然に囲まれた良好な中層住宅地環境の保全
- ・生活関連機能の充実、生活道路の環境整備・維持保全、身近な生活拠点の活用
- ・公園緑地などの維持管理コスト削減への配慮
- ・養護老人ホームほか、特色ある施設との連携

◆国道39号沿道の魅力づけ

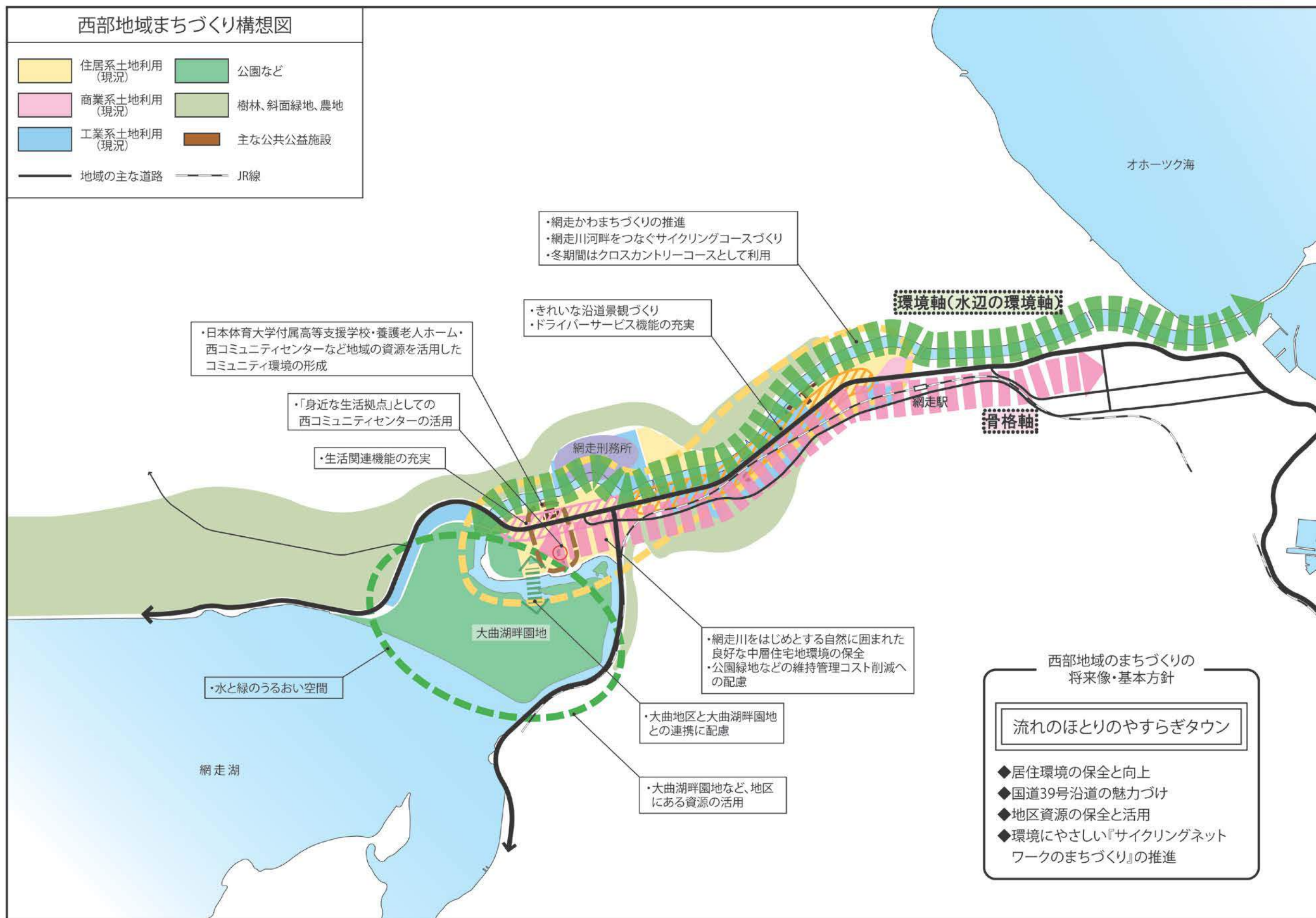
- ・きれいな沿道景観づくり
- ・ドライバーサービス機能の充実
- ・網走川河畔における緑地の整備

◆地区資源の保全と活用

- ・大曲湖畔園地の多様な活用

◆環境にやさしい「サイクリングネットワークのまちづくり」の推進 ※中心市街地・中心市街地周辺地域との共通方針

- ・「網走かわまちづくり」の推進
- ・網走川河畔をつなぐサイクリングコースの活用（冬はクロスカントリーコースとして利用）
- ・自転車利用を促進する環境づくり



(4) 南部地域

①地域の現況

南部地域は市街地の南側に位置し、全市の中で最も大規模な住宅系の市街地が形成されており、現在も新規戸建住宅地開発が進む新興住宅市街地です。

宅地開発に伴って道路、公園などの都市基盤整備が計画的に進められ、ゆとりと個性があり、近接する緑地や公園と調和した緑があふれる良好な住環境が備わっています。近年 10 カ年における新築住宅の立地については市内で最も多くなっており、世帯数は年々増加しており、総人口は減少傾向にあるものの網走市全体の約半数を占めています。

近年の世帯数の増加に併せて地域内及び広域的な幹線道路である 3・3・3 本通沿線には大型商業施設の立地が進行しており、高台地区における商業核の形成がなされています。

一方、潮見地区やつくしヶ丘地区には規模の大きい老朽化した公営住宅団地がみられることから、その再整備が必要となっています。

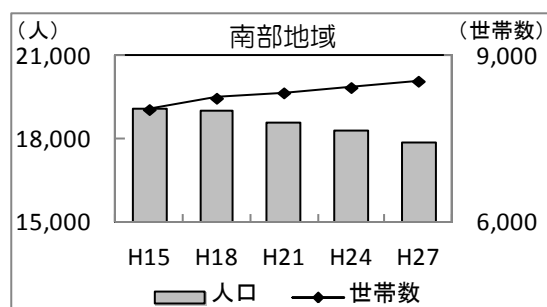
また、郊外部においては「天都山エリア」と呼ばれ網走の新たな魅力づくりが行われており、一方では、郊外部の太陽光発電施設の立地に関しては周辺の自然景観に配慮したものとしていくことが必要です。

■南部地域の人口、世帯数の推移

	平成 15 年	平成 18 年	平成 21 年	平成 24 年	平成 27 年
人口	19,057	18,987	18,589	18,295	17,892
世帯数	8,044	8,248	8,345	8,441	8,555

資料：住民基本台帳

注) 住民基本台帳調査区域のうち、「駒場北・南」「つくし」「潮見・字潮見」「鱒浦・字鱒浦」「字八坂」の合計値を南部地域の人口、世帯数としている。



②地域の資源

本地域では、多くの商業施設や生活関連施設等が立地しており、利便性の高い生活環境にあります。また、地域のコミュニティ拠点として「駒場住民センター」・「潮見コミュニティセンター」・「南コミュニティセンター」ほか多くの公共施設の立地もみられます。

新興住宅地として計画的な市街地整備が進められてきた本地域内には、緑豊かな道路が続き、個性ある住宅が建ち並ぶ住宅地景観もみられます。

また、整然と整備された住宅地を縫うように、地形の起伏を活かしながら広々と整備された駒場公園が位置しており、海側では防風林となる樹林帯が形成され、これらの中には緑とふれあいを楽しめる「木の広場」が整備されているほか、野球場などが整備されている運動公園と併せて、緑あふれる豊かな憩い空間が位置する恵まれた環境にあります。

そのほか、市街地の外縁部は樹林などが広がっており、自然と身近な暮らしを実感することができます。

③まちづくりの将来像

南部地域のこれからのまちづくりにあたっては、居住拠点地区としての良好な住環境の維持と楽しさあふれる生活機能の向上を目指していきます。

このことから、本地域のまちづくりの将来像を

『ちょっとおしゃれに住めるまち・網走の山の手』

とし、3.3.3 本通沿道の「都市軸」と「沿道商業ゾーン」の形成を進めるとともに、ゆとりと落ち着きある生活空間と都市基盤が整った質の高い住環境を確保し、住宅地と調和した魅力的な商業機能の導入などによる個性的なまちづくりを目指します。

④まちづくりの基本方針

将来像の具体化にむけて、以下の基本方針を柱としたまちづくりを展開します。

1) 市街地周辺の自然環境の保全

南部地域には住宅地と近接して、樹林、農地が広がり、これらを縫うように小河川が流れており、緑と水の身近な自然環境は、生活に潤いと豊かさをもたらす大切な資源となっています。

将来にわたる身近な自然の豊かさを実感できる潤いある暮らしの維持にむけて、これらの緑地や河川周辺環境の保全に努めます。

また、郊外の丘陵部においては、自然との調和を大切にしながら新たな魅力を創出する「森の環境軸」の形成を図っていきます。

2) 良好で利便性の高い住環境の維持

南部地域は居住拠点地区として、低層住宅を主体としたゆとりと個性ある住宅地づくりを進めるとともに、公営住宅団地の建替や公園緑地機能の見直しや集約・新設などにより、住民や行政との協働も視野に入れながら良好な居住環境づくりを行っていきます。

また、用途地域外において既に一定程度のまとまりのある良好な住宅地が形成されているエリアについては、その住環境を担保していくための適切な手法の検討を行います。

一方、多様な商業施設が集積する「骨格軸」である3・3・3 本通沿線においては、小清水方面からの市街地の玄関口としての役割も考慮し、高台地区の快適な生活を支える「沿道商業ゾーン」としての機能の向上や利便性の高い公共交通ネットワークの形成に向け、各種事業者との連携を図りながら検討を進めます。

また、「駒場住民センター」・「潮見コミュニティセンター」・「南コミュニティセンター」については、「身近な生活拠点」としての活用を図っていきます。

さらに、新たな道路の整備や適切な維持保全・歩行者と自動車の双方に配慮した既存道路の安全性や環境の向上を図っていきます。

3) 憩いある歩行者ネットワークの形成

地域内の大小の公園・緑地周辺では、わかりやすい案内標示板の設置や地域二車を踏まえた新設、また維持管理コストの低減に配慮していくとともに、これら公園・緑地のネットワーク化を進め、より親しみやすい交流空間としての環境整備に取り組みます。

◇◇◇南部地域のまちづくり構想◇◇◇

【まちづくりの将来像】

南部地域の現況・特性

- ・新興住宅市街地
- ・世帯数が増加傾向
- ・計画的に整備された都市基盤整備（道路、公園など）
- ・沿道型商業施設が集積
- ・地域の外縁は畑、緑地が取り囲む
- ・民間主導の宅地開発がみられる
- ・天都山エリアにおいて、カフェや飲食店が立地

南部地域の声

- ・新興住宅地としての良好な住環境の維持・向上にむけた取り組みが必要（公園の利便性、道路・歩道の安全性、街並み景観など）
- ・市街地の拡大に伴う周囲の自然空間（川、農地、緑地）が減少しつつある
- ・世帯数の増加に対応した、高台地区における生活サービスの拠点的作用が求められている

ゆとりと落ち着きある生活空間

居住拠点地区

小粋でおしゃれな生活拠点

都市基盤が整った質の高い住環境

おしゃれで楽しい商業空間

ちよっとおしゃれに
住めるまち・網走の山の手

【まちづくりの基本方針と主要な取り組み】

◆市街地周辺の自然環境の保全

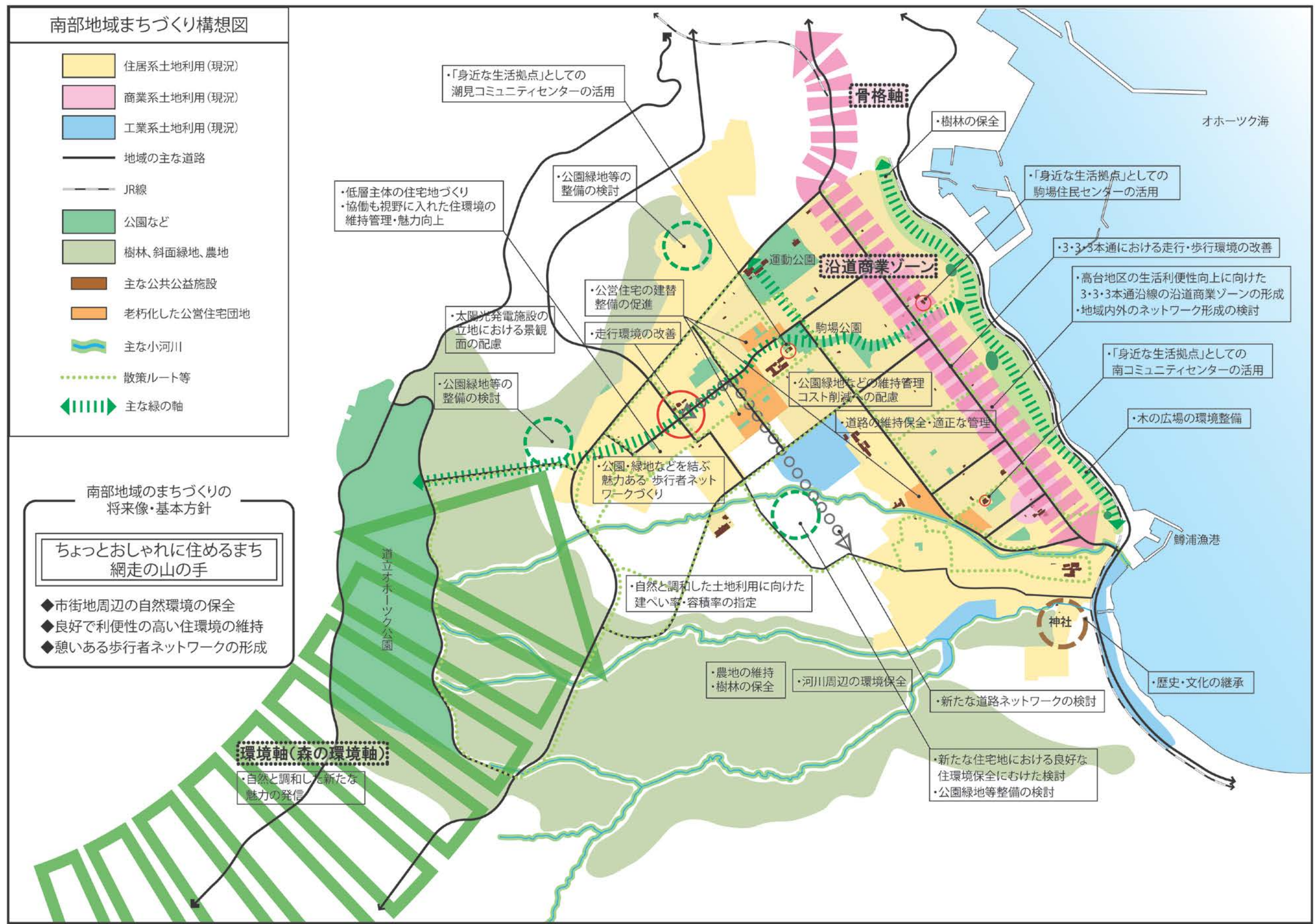
- ・農地の維持、樹林の保全
- ・河川周辺の環境保全
- ・自然と調和した新たな魅力の発信（天都山IRP）

◆良好で利便性の高い住環境の維持

- ・低層主体の住宅地づくり、新たな住宅地における良質な住環境の担保
- ・協働の取り組みも視野に入れた良好な住環境の維持管理
- ・3・3・3 本通（骨格軸）における、高台市街地の生活利便性向上に向けた「沿道商業ゾーン」づくりと、小清水方面からの市街地の玄関口としての役割検討
- ・公共交通ネットワーク形成の検討、身近な生活拠点の活用
- ・新たな道路整備や歩行者の安全性など、交通環境の向上・道路の維持保全
- ・公営住宅団地の建替整備や公園の統廃合等の検討

◆憩いある歩行者ネットワークの形成

- ・公園緑地などの維持管理コストの削減への配慮・新規整備の検討
- ・公園緑地などを結ぶ魅力ある歩行者ネットワークづくり



(5) 呼人地域

①地域の現況

呼人地域は網走都市計画区域の南端に位置し、国道 39 号と網走湖に面して形成された集落市街地で、用途地域の指定はありませんが、一定規模の都市的土地利用が既に進行している地域となっています。

住居系の土地利用をはじめ、宿泊施設や福祉施設及び工業系施設の立地が見られるほか、様々な競技の利用に対応した大規模なスポーツフィールドが整備されています。

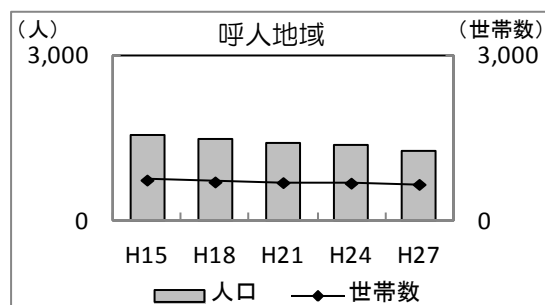
今後は、郊外型の住宅市街地としての基礎的な都市基盤の整備を進めながら、既存施設の集積を活かしたスポーツや健康を核にした交流拠点として位置づけていくとともに、「天都山エリア」との連携も視野に入れて、周囲に広がる水や緑の貴重な自然環境の保全と調和した市街地のあり方について共通認識を持つことが必要となっています。

■呼人地域の人口、世帯数の推移

	平成 15 年	平成 18 年	平成 21 年	平成 24 年	平成 27 年
人口	1,534	1,484	1,407	1,370	1,256
世帯数	744	710	698	688	666

資料：住民基本台帳

注) 住民基本台帳調査区域のうち、「字呼人」と「字大曲」の合計値を呼人地域の人口、世帯数としている。



②地域の資源

呼人地域には、網走湖を中心に国定公園の指定地区があり、周囲の山林や湖に突き出した呼人半島では桜や梅、水芭蕉の群生や珍しい鳥、昆虫など、呼人ならではの自然を楽しめます。

また、本地域一帯は温泉地として大小の宿泊施設が集まっており、オホーツクを代表する温泉地の一つとして多くの来訪者があるほか、はまなす国体を契機に整備されたボート競技場があり、野球、サッカー、ラグビーなどに対応する各種の競技施設を備えた「スポーツトレーニングフィールド」が整備されて、全国各地から社会人や学生の合宿地として利用されています。このようなスポーツ関連施設のほか、道立網走養護学校や地域のコミュニティ拠点としての「呼人コミュニティセンター」、市民に広く活用されている「食品加工体験センター『みんぐる』」も立地しています。

さらに、冬のレクリエーションの場として湖に面してスキー場が位置しており、凍結した網走湖はワカサギ釣りのメッカとして毎年多くの人々でにぎわうほか、雪や氷をテーマとした各種のイベントも開催されています。

③まちづくりの将来像

これからの呼人地域のまちづくりにあたっては、緑と水が豊かで美しい貴重な自然との共生を実践し、人々のふれあいあふれる温泉の郷として、自然と調和した地域環境の創出を目指します。

このことから、本地域のまちづくりの将来像を

『森と湖と温泉のまち』

とし、自然の保全とともに自然と親しみ楽しむための環境整備を進めるとともに、「森の環境軸」などによる市街地部との連携にも配慮しながら、人々がいきいきと暮らし、交流するまちづくりに努めます。

④まちづくりの基本方針

将来像の具体化にむけて、以下の基本方針を柱としたまちづくりを展開します。

1) 自然環境の保全

「森の環境軸」の位置付けも踏まえながら、貴重な小動物の生息や美しい植物の群生などが見られる網走湖畔の水辺、山林の自然環境を網走の大切な宝として再確認し、その認識の共有化による適切な自然資源の保全に努めます。

2) 自然空間でのレクリエーション機能の向上

自然空間での貴重な体験を提供する場として、網走湖での安全で快適なヨット・カヌー遊びのためのけい留施設のほか、ポート競技場の活用、呼人半島などの山林内での散策ルート等の新設や案内板、休憩所の設置などにより、地域住民や来訪者がより親しく、楽しく自然と触れ合える環境整備に取り組みます。

3) 市街地の街並み景観形成

呼人地域は温泉地として、また網走市内および「天都山エリア」の玄関口として、網走のまちを印象づける上で貴重な役割を担っています。

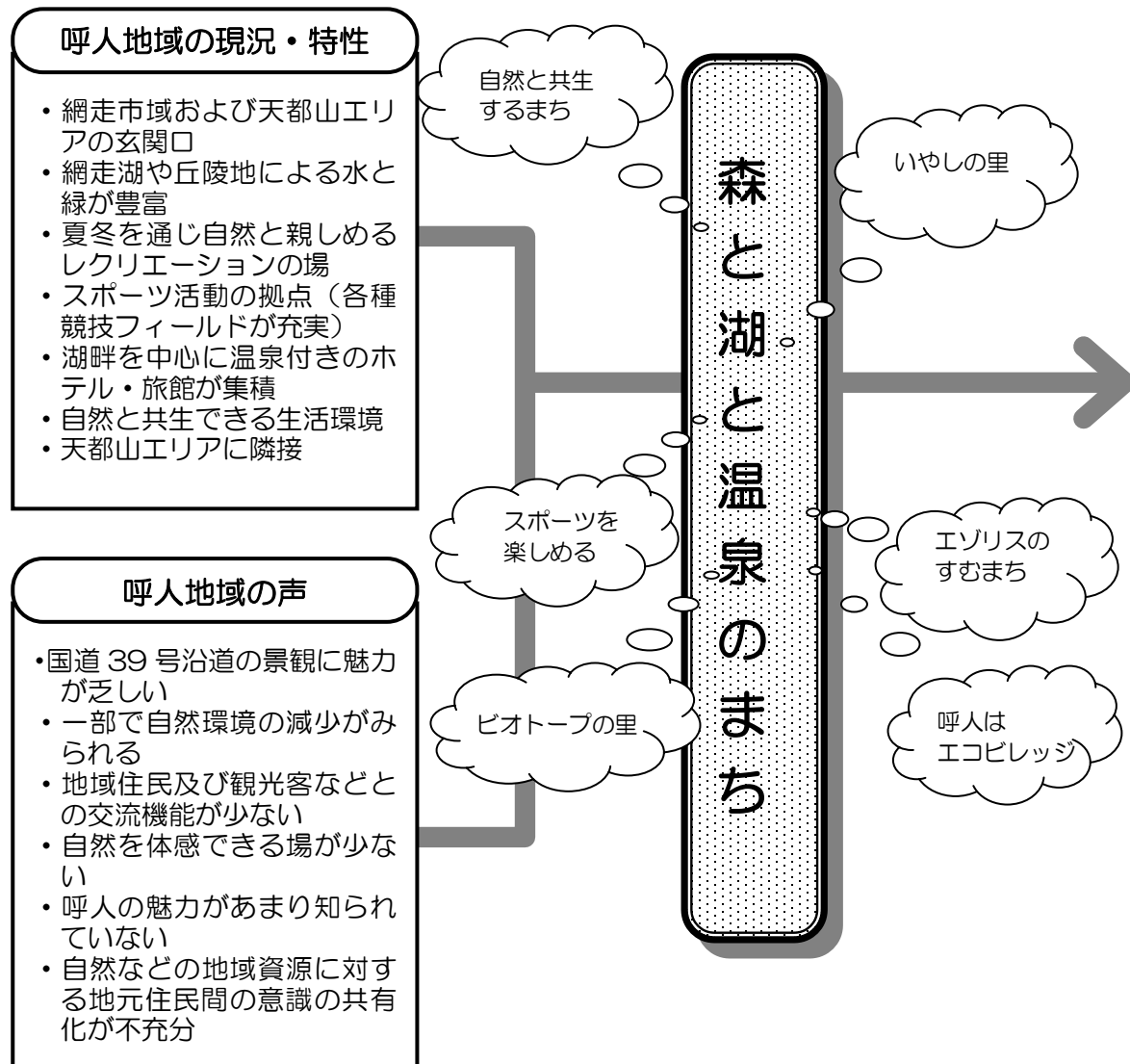
本地域では、特に幹線道路沿道において周囲の自然と調和した街並み形成を図ることが重要であるといえ、道路等の都市基盤の適正な維持・管理を図っていくとともに、花や木による緑化や施設・看板のデザイン上のルールづくりなど、地域との協働の視点も視野に入れながら、来訪者をより温かく歓迎する市街地景観の向上に努めます。

4) 住民協力体制の強化、住民活動の促進

集落市街地における緊密なコミュニティを大切にし、コミュニティの核施設といえる「呼人コミュニティセンター」については「身近な生活拠点」としての活用を図っていきます。また、自然環境の保全を進めるとともに、自然の中での個性ある暮らしが実践できるような環境づくりを検討していきます。

◇◇◇呼人地域のまちづくり構想◇◇◇

【まちづくりの将来像】



【まちづくりの基本方針と主要な取り組み】

◆自然環境の保全

- ・「森の環境軸」との連携
- ・緑地環境の保全、水辺環境の保全
- ・湿地（水芭蕉の群生地）の保護
- ・昆虫・小動物の生活圏の環境保護
- ・群生植物の保全（桜林、梅林）

◆自然空間でのレクリエーション機能の向上

- ・カヌー、ヨットなどのけい留施設、ボート競技施設の活用
- ・呼人半島での散策ルート等、案内板などの環境整備
- ・宿泊施設と湖を結ぶ散策ルート等の環境整備

◆市街地の街並み景観形成

- ・都市基盤の適切な維持管理、花壇などの管理の協力体制づくり
- ・公共施設周辺の環境整備
- ・天都山エリア等、まちの玄関口にふさわしい、魅力ある景観づくり
- ・神社周辺での呼人の歴史を活かした環境整備

◆住民協力体制の強化、住民活動の促進

- ・住民意識の共有化による地域資源の保護、身近な生活拠点の活用
- ・相互支援システムの確立（人材バンクなど）
- ・呼人物産品の開発（リンゴ、木工、土の活用など）
- ・住民活動の場づくり（ギャラリー・工房づくり、朝市・野菜市場の活動支援など）

VII. 実現化に向けて

1. 実現化に向けて

（１）暮らしやすさの向上のための「拠点」と「連携」の構築

網走市においては、平成 27 年度の「人口ビジョン」の策定により、今後の人口減少や高齢化率の増加に関する具体的な推計値が明示されたところです。また、同年に策定された「まち・ひと・しごと創生 総合戦略」においては、ソフト面を中心とした定住人口の確保策や、高齢化が進む中においても安心して暮らせるための施策などが位置付けられました。

これらの流れを受けて、今後さらに人口減少や高齢化が進む中においても、持続的なまちづくりを推進していくために、本見直し作業にあたっては「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を大きなテーマとして捉え、以下の様な「性格の異なる3つの拠点」とともに、それらの連携を支える公共交通のあり方について検討しました。

- ・ 中枢機能の維持・向上を図り網走全体の活力を牽引する『都市拠点』
- ・ 高台地区のうるおいある環境づくりと生活利便性の向上のための『沿道商業ゾーン』
- ・ 歩いて行ける範囲の生活サービス向上のための『身近な生活拠点』

このような各拠点やネットワークを円滑に機能させ、将来にわたり住みやすいまちとしていくためには、行政のみならず交通事業者や商業等の事業者、及び市民との連携が不可欠といえます。

「沿道商業ゾーン」においては、当該ゾーンを構成する各施設との連携による魅力あるまちなみ景観づくりとともに、「身近な生活拠点」の形成においては、コミュニティセンターや住民センターのみならず、周辺に立地する大学や福祉施設などとの新たな連携を模索し、地域コミュニティ・地域交流を積極的に促していくことが重要です。

さらなる暮らしやすさの向上のため、このようなハード・ソフト両方にわたる、多様な多面的な取り組みの実現に向けた検討を行っていきます。

（２）行政における推進体制

「網走市都市計画マスタープラン」に記載した取り組みについて、実行性の確保、円滑な取り組みにむけて、既存の庁内組織をもとにした庁内ネットワークの確立を図り、計画の進行管理を行っていきます。

また、国や北海道をはじめとした関連機関との調整・連携により、広域的な道路の整備などの円滑な推進を促していきます。

（３）住民との協働

当初策定を行った都市計画マスタープランは、住民の皆様の参加を中心としながら進めてきた計画ですが、将来にわたる財政状況の見通しなどから、全てのことがらについてすぐに実現していくことは困難であると考えられます。

しかし、自分たちのまちづくりを自ら行っていく、住民参加・住民との協働の視点で、少しずつではあっても着実に、各事業の実現に取り組んでいくことが重要であると考えられます。

以上のような基本姿勢のもと、この都市計画マスタープランを指針としながら、住民や事業者・各種関係団体等の皆様との協働の視点でまちづくりを推進していきます。

VIII. 資料

●網走市都市計画審議会名簿

氏 名	所 属	役 職	備 考
吉田 裕次	網走漁業協同組合	参事	
尾崎 行雄	網走商工会議所	専務理事	
山田 健一	網走市農業委員会	農地常任委員長	
阿保 誠司	連合北海道網走地区連合会	会長	
及川 清治	オホーツク網走農業協同組合	経営企画室長	
五十嵐 台樹	網走青年会議所	理事長	
菅原 優	東京農業大学生物産業学部	准教授	
佐藤 幸枝	オホーツクキャリアデザインネットワーク		
井戸 達也	網走市議会	議員	
金兵 智則	網走市議会	議員	
川原田 英世	網走市議会	議員	
永本 浩子	網走市議会	議員	
滝井 崇義	一般公募		
浜名 みゆき	一般公募		

●網走市都市計画マスタープラン策定委員会名簿

氏 名	所 属 等	役 職	備 考
上田 智久	東京農業大学生物生産学部	准教授	委員長
川畑 学	網走商工会議所	振興課長	
柳沼 秀光	オホーツク網走農業協同組合	管理部長	
米沢 まり子	網走市女性団体協議会		
結城 慎二	連合北海道網走地区連合会	事務局長	
吉田 裕次	網走漁業協同組合	参事	
中村 圭	網走青年会議所		
川尻 敏文	西網走漁業協同組合	信用課長	
井上 範一	網走市観光協会	専務理事	
黒田 幸市	網走市町内会連合会	会長	
金野 雅臣	網走市社会福祉協議会	課長	
田中 雄一	網走中央商店街振興組合	理事長	
本間 公三	網走消費者協会	会長	
小野 湊	網走市老人クラブ連合会	副会長	
明神 健太	網走バス（株）	常務取締役	
榊原 宏洋	一般公募 会社役員		
益村 公人	一般公募 会社役員		
石原 久美	一般公募 団体職員		
	企画総務部	部長	網走市
	市民部	部長	
	福祉部	部長	
	経済部	部長	
	観光部	部長	
	水産港湾部	部長	
	建設部	部長	
	水道部	部長	
	学校教育部	部長	
	社会教育部	部長	

●網走市都市計画マスタープランワーキング会議名簿

部名	課名
企画総務部	企画調整課
	総務課
	財政課
市民部	市民課
	健康管理課
	生活環境課
福祉部	社会福祉課
	介護福祉課
	子育て支援課
経済部	商工労働課
	農政課
観光部	観光課
水産港湾部	水産漁港課
	港湾課
建設部	建築課
	都市開発課
	土木管理課
水道部	下水道課
	施設課
学校教育部	管理課
社会教育部	社会教育課
	スポーツ課

●用語集

用語		説明	ページ
あ行	アメニティ	Amenity（アメニティ）は、「心地よさ、快適さ」といった意味。 まちづくり分野においては、特に、まちで快適に過ごせるための施設や設備という意味で使われる。	P74
	ウエルカムタウン	Welcome（ウエルカム）は、「ようこそ、いらっしゃい」といった意味。 ここでは、市街地の入口部分に位置し、居住者や来訪者に対して、もてなしを感じられるまち（タウン=town）の意味で使用。	P78
か行	ガイドブック	Gide book（ガイドブック）は、特定の事柄について案内や説明を記した書物や小冊子のこと。 「防災ガイドブック」は、自然災害による被害を最小限にするため、前もって準備できることや災害発生時に取るべき行動などを記載したもの。	P61
	ゲートシティ	Gate（ゲート）は、「門、出入口」といった意味。 ここでは、入口部分に位置するまち（シティ=city）の意味で使用。	P13
	コスト	Cost（コスト）は「費用・経費」といった意味。 まちづくり分野においては、初期投資コスト・管理コストなどとして使われる。	P30ほか
	コミュニティ	Community（コミュニティ）は、「住民・仲間の交流」といった意味。 まちづくり分野においては、特に、市民や近隣住民の日常生活における交流という意味で使われる。	P31ほか
	コンバージョン	Conversion（コンバージョン）は、「改装、転換」といった意味。 ここでは、建物の用途変換・転用の意味で使用。	P9
	コンパクトシティ	Compact city（コンパクトシティ）は、主にまちづくり分野で使用される言葉。 市街地の拡大を抑えていくとともに、まちなかの活性化を図ることより、人口減少・高齢化が進む中においても住みやすいまちづくりを進めていくという考え方。	P36
	コンパクトシティ・プラス・ネットワーク	国土交通省が「国土のグランドデザイン 2050」の中で提唱しているもので、人口減少・高齢化が進む中においても、地域活力を維持・生活機能を確保していくための方針。 地域公共交通との連携のもと、住宅地等を拡大していくのではなく、市街地内の未利用地や空き家なども効果的に活用して、生活に便利なまちづくりを行っていくという考え方。	P8ほか
さ行	シルバーハウジング	高齢者が地域の中で自立し、安全かつ快適な生活を続けられるよう、その住宅生活を支援するために必要な保健・医療及び福祉サービス緊急通報システム等が一体的に整備された公営住宅のこと。	P70
た行	D I D（ディー・アイ・ディー）地区	Densely Inhabited District の略で、「人口集中地区」のこと。 国勢調査により設定される統計上の地区であり、人口の集積をみるための指標として使われるもの。	P40

な行	ネットワーク	Network（ネットワーク）は、「人や人、交通の繋がりやしきみ」といった意味。 まちづくり分野においては、特に、「連携」「連続性」「繋がり」という意味で使われる。	P13 ほか
は行	ハード・ソフト	まちづくり分野においては、道路や公園・住宅や店舗づくりの様に、実際の建物や公共基盤を「ハード」と言う。一方、福祉や地域活動の様に、モノ造りに関連しない取組を「ソフト」と言う。	P53 ほか
	ハザードマップ	防災のために、災害想定区域や避難場所、避難情報の伝達経路、過去の災害実績などを住民にわかりやすく示した図のこと。	P61
	バリアフリー	Barrier free（バリアフリー）は、高齢者や障がい者が社会生活に参加するうえで支障となる物理的・精神的な障壁を取り除くといった意味。 まちづくりの分野においては、建築物などのハード面整備等において取組が求められている。	P53
	ビジョン	Vision（ビジョン）は、「未来像、将来像」といった意味。 また、「網走市人口ビジョン」は、平成 27 年度に国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」趣旨を受けて策定された「網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との連携のもと、網走市の人口の将来展望を目指すもの。	P7 ほか
ま行	メンテナンス	Maintenance（メンテナンス）は、「持続、保持、保全」といった意味。 ここでは、施設等の維持管理の意味で使用。	P30 ほか
や行	ユニバーサルデザイン	まちづくり分野においては、Universal design（ユニバーサル デザイン）は、高齢者や障がい者をはじめ、全ての人が利用しやすい快適な環境を目指すことをいう。	P32 ほか
ら行	レクリエーション	Recreation（レクリエーション）は、「日常の疲れをいやす為の休養や娯楽」といった意味。	P13 ほか
わ行	ワーキング（会議）	ここでは、「庁内ワーキング」として、市役所内の関係各課との調整会議の意味で使用。	P6 ほか
	ワークショップ	Workshop（ワークショップ）は、「作業場、参加者が知識を分け合う研究集会」といった意味。 まちづくり分野の住民参加の一つの方法として、あるテーマのもと、参加者が自由な討論を行いながら方向性を見い出していくもの。	P4 ほか